

第1章 海岸の保全に関する基本的な事項

第1節 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

(1) 海岸の概要

日向灘沿岸は、大分県境から鹿児島県境までの範囲であり、延岡市、門川町、日向市、都農町、川南町、高鍋町、新富町、宮崎市、日南市、串間市の10市町からなる総延長約400kmの海岸である。

日向灘沿岸は、北部が日豊海岸国定公園に、南部が日南海岸国定公園にそれぞれ指定されており、また、沿岸全域でアカウミガメをはじめとする野生生物の生息・生育・産卵が見られるほか、天然記念物の樹林帯等が分布するなど、豊かな自然環境と海岸景観がある。

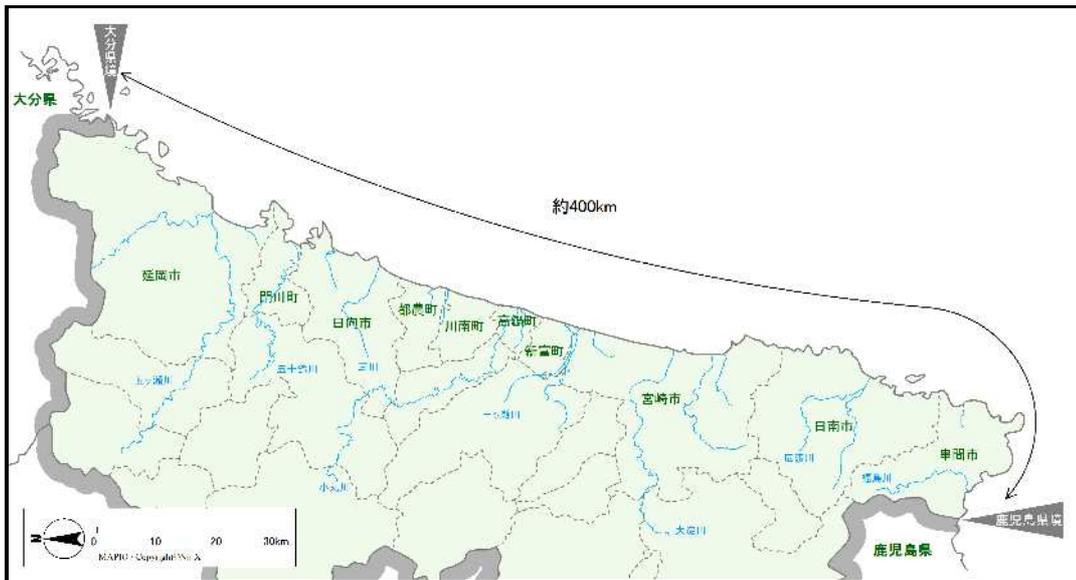


図 - 1.1.1 日向灘沿岸の概要

(2) 海岸の現況

自然的特性

1) 気象

本県は、温暖、多照、多雨という特性を持っており、昭和56年から平成22年までの平均では、年間降水量及び快晴日数が全国第2位、日照時間が全国第3位となっている。

多照：日照時間が多いこと

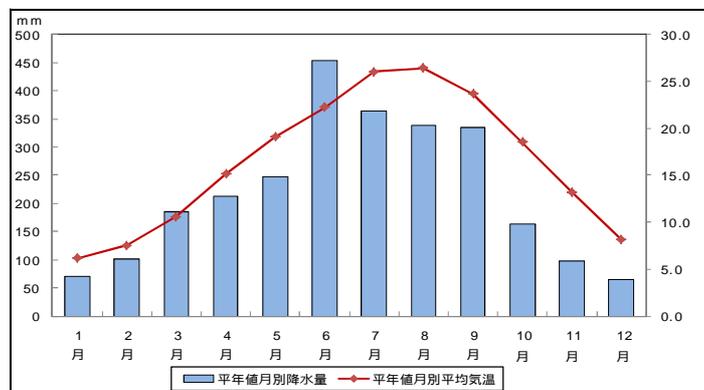


図 - 1.1.2 平年値月別降水量及び平均気温 (昭和56年～平成22年)

資料：指標でみる宮崎県(平成25年度)¹⁾、気象庁HP²⁾

2) 海象

. 潮位

日向灘沿岸における潮位は、細島港験潮場において既往最高潮位 T.P.+1.78m、朔望平均満潮位^{注1)} T.P.+1.00m、朔望平均干潮位^{注2)} T.P.-0.92m が、また、宮崎港験潮所において既往最高潮位 T.P.+2.42m、朔望平均満潮位^{注1)} T.P.+1.10m、朔望平均干潮位^{注2)} T.P.-0.95m が、さらに、油津港験潮所において既往最高潮位 T.P.+1.96m、朔望平均満潮位^{注1)} T.P.+1.05m、朔望平均干潮位^{注2)} T.P.-0.95m が観測されている。

なお、設計高潮位は、上記観測所における既往最高潮位とし、設計高潮位及び適用範囲は図-1.1.3 を基本とする。

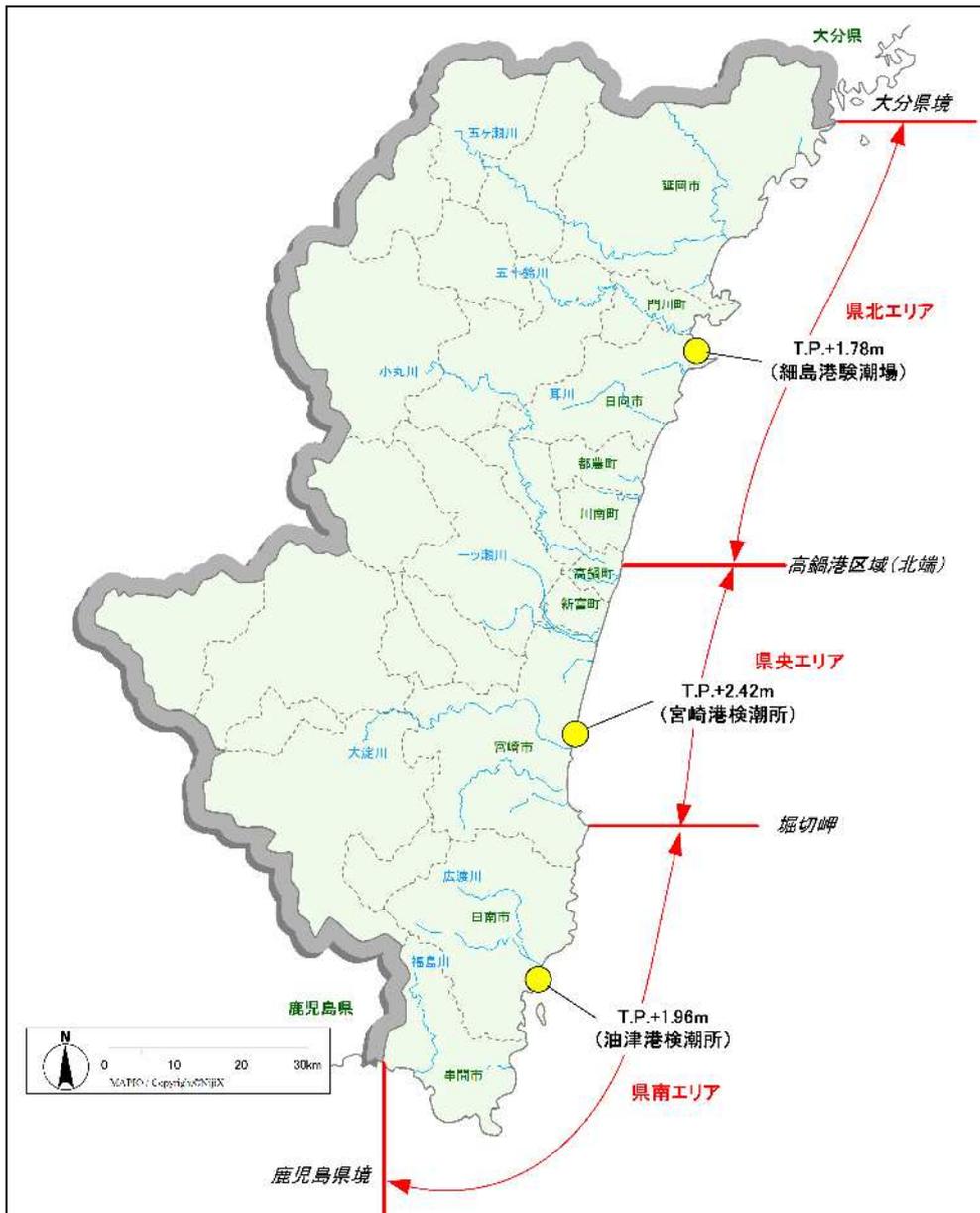


図 - 1.1.3 設計高潮位の適用範囲

注1) 朔(さく)望平均満潮位：さく(新月) 望(満月) の日から5日以内に現れる各月の最高満潮面を平均した水位 (2009年~2013年)

注2) 朔(さく)望平均干潮位：さく(新月) 望(満月) の日から5日以内に現れる各月の最高干潮面を平均した水位 (2009年~2013年)

.波浪

a.日向灘沿岸の沖波

日向灘沿岸の設計沖波のうち、沿岸に対して危険となる方向の沖波条件については、以下に示す範囲で設定されており、全沿岸域において、うねり性の高波浪が襲来する。

表 - 1.1.1 施設設計に適用する沖波条件 (30年確率)

海 域	主方向	沖波波高 (m)	沖波周期 (sec)
県北部 (県境 ~ 高鍋港湾区域(北端))	ENE ~ SSE	9.1 ~ 12.5	10.5 ~ 14.0
県中部 (高鍋港湾区域(北端) ~ 堀切岬)	ENE ~ SSE	9.4 ~ 13.9	10.8 ~ 15.0
県南部 (堀切岬 ~ 都井岬)	ENE ~ SSE	8.9 ~ 13.6	10.9 ~ 14.3
県南部 (都井岬 ~ 県境)	SSE ~ SW	8.7 ~ 13.4	10.2 ~ 14.3

上表では、沿岸に対して最も危険であると判断される方向 (主方向) のみを記載している。

実際の沖波は、NE ~ SWについて沖波推算がなされている。

資料 : 漁港・漁場設計沖波一覧(平成 17 年 8 月)³⁾、港湾設計沖波一覧(平成 15 年 7 月)⁴⁾、確率波処理システム(平成 14 年度)⁵⁾

b.流況

潮流の一般的状況は、上げ潮時(干潮の3時間後から満潮の3時間後まで)には北北東方向、下げ潮時(満潮の3時間後から干潮の3時間後まで)には南方向への流れが生じている。平均的な最強流速は大潮時で南部が1.0ノット(0.5m/sec)、北部が1.8ノット(0.9m/sec)程度で、小潮時にはその約半分となる。

資料 : 海図 足摺岬至宮崎港(2007年9月6日)⁶⁾、海図 大隅海峡東部及付近(2013年6月6日)⁷⁾

3)地形

海岸地形については、日向灘沿岸を以下のとおり3つの区域で分類できる。

A : 大分県境から日向市耳川の区域 (県北部沿岸) は、入り組んだリアス式の崖海岸が多い地形であり、岬の間にポケットビーチが点在するが、ほとんどは1km未満の海浜である。なお、その中でも比較的延長の長い海岸としては、長浜海岸と小倉ヶ浜海岸がある。

B : 耳川から青島までの県中部の区域 (県中部沿岸) は、沿岸漂砂が連続する砂浜を中心とする海岸であり、海岸線は、ほぼ直線的である。外洋からのうねり性の波浪が直接来襲すること、海岸へ流入する河川も多い海岸である。

C : 青島から鹿児島県境までの県南部の区域 (県南部沿岸) は、リアス式海岸で岬とその間に存在する小規模のポケットビーチで構成されている海岸域である。急な断崖地形が多いが、河川の注ぎ込むポケット状の地形の箇所には、砂浜が存在している。比較的延長の長い海岸としては、油津港の北側に位置する広渡川周辺、市木川河口部、本城川河口部及び福島港周辺である。

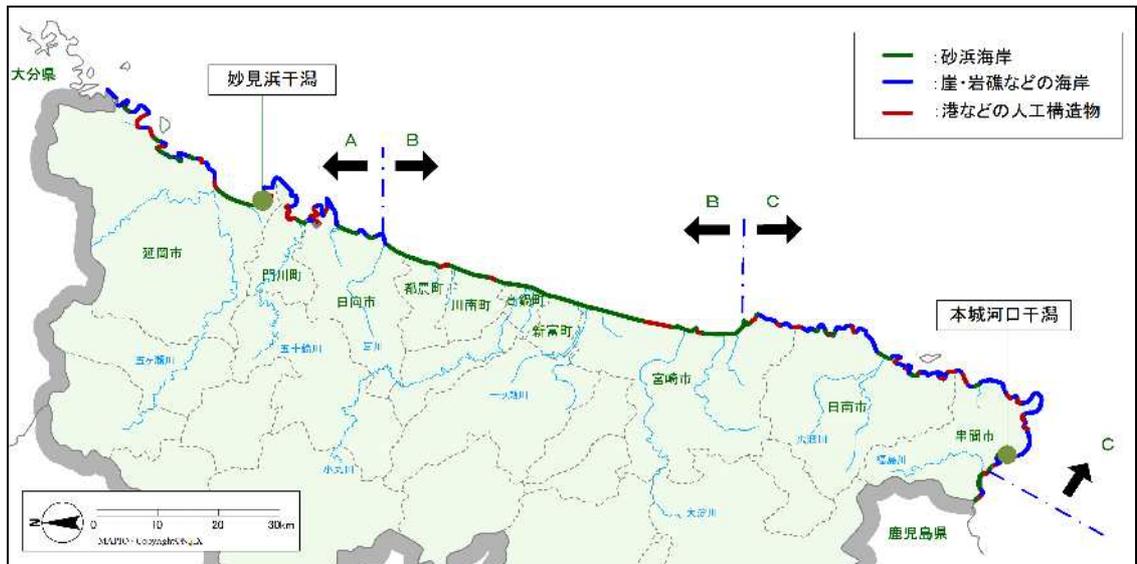


図 - 1.1.4 本県の海岸線の地形（海岸性状）

資料：航空写真(平成 25 年)⁸⁾

4)水質

日向灘沿岸における公共用水域水質測定ポイントは51ヶ所であり、このうち、要求される水質類型はA類型・B類型・C類型があるが、A類型が38ヶ所、B類型が5ヶ所、C類型が0ヶ所、未指定が8ヶ所である。各水質測定ポイントの有機汚濁の指標となるCODを見ると、日間平均値の75%値では全てのポイントで2mg/l以下となっており、おおよそ良好な水質であるといえる。

また、県内の海水浴場の平成26年度海水浴場水質結果開設前調査は、最高ランクの「水質AA」と判定された。なお、本県は、過去10年連続で全て「水質AA」と良好な水質を維持し続けている。



図 - 1.1.5 平成 26 年度海水浴場水質調査結果

資料：環境白書(平成 26 年版)⁹⁾、平成 26 年度海水浴場水質調査結果¹⁰⁾

5) 流入河川

日向灘沿岸に流入している河川は 55 水系であり、各市町村別では、日南市の 12 水系を始め、延岡市の 10 水系、宮崎市の 9 水系、串間市の 8 水系等となっている。

一級河川は、五ヶ瀬川、小丸川、大淀川である。また、主な二級河川として、沖田川、耳川、一ツ瀬川、清武川、広渡川、福島川などがある。

資料：宮崎県河川・海岸図(平成 24 年 12 月)¹¹⁾

6) 地質

県北部の地質は、主に“白亜紀付加コンプレックス”及び“古第三紀付加コンプレックス”からなっており、県中部では、“沖積層”及び“宮崎層群(後期中新世～鮮新世)”が広がっている。県南部は、主に“古第三紀付加コンプレックス”からなっている。

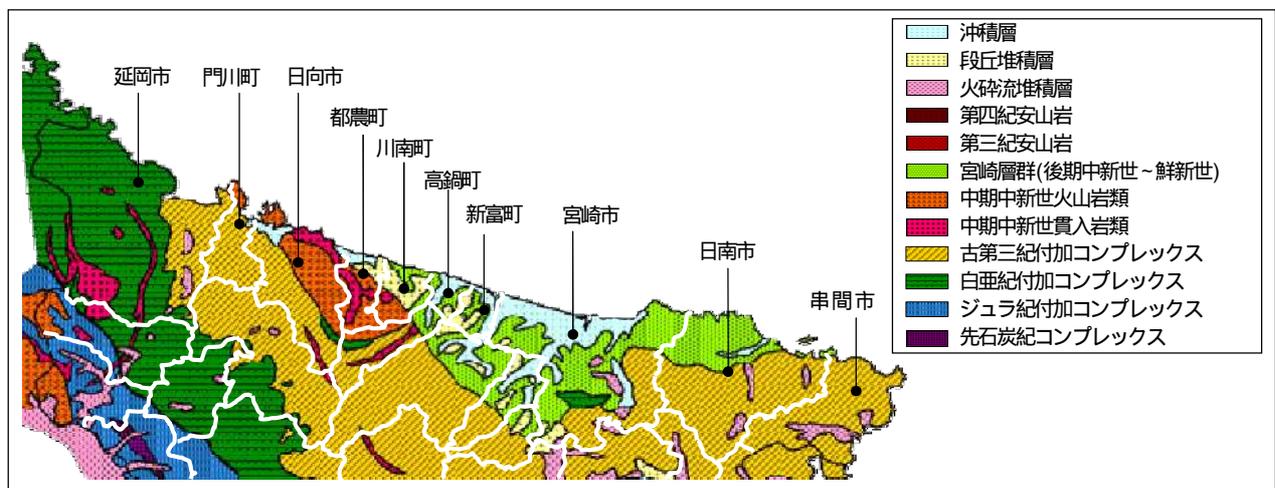


図 - 1.1.6 地質図

出典：宮崎大学山北研究室資料¹²⁾

社会的特性

1)人口

本県全体の人口は、1,135,233人(平成22年10月、以下同じ)であり、平成17年～平成22年の増加率はマイナス1.54%である。

日向灘沿岸の市町別に見ると、宮崎市が400,583人と最も多く、都農町が11,137人と最も少ない。人口が増加している市町は、宮崎市のみであり、その他の市町は減少している。

年齢別に見ると、本県における65才以上の人口の構成率が全国平均より高いことから、高齢化が全国より早く進んでいると言える。

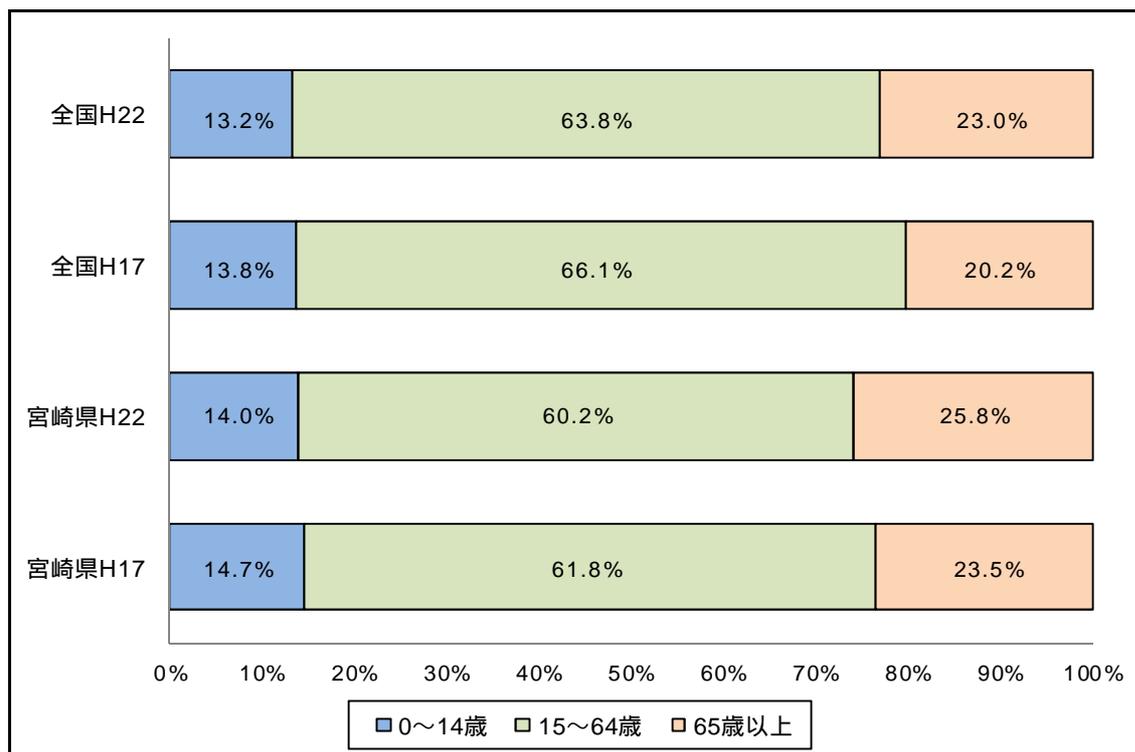


図 - 1.1.7 年齢別人口の推移(全国平均・宮崎県)

資料：平成17年国勢調査¹³⁾、平成22年国勢調査¹⁴⁾

2)産業

本県における産業別就業人口は、全国と同様、第1次産業の就業者は減少傾向にあり、第2次産業はほぼ横ばい、第3次産業は増加傾向にある。

沿岸各市町別に見ると、第1次産業の割合が30%を超えるのは、川南町であり、第3次産業の割合が60%を超えるのは、延岡市、高鍋町、宮崎市である。

資料：平成22年国勢調査¹⁴⁾

3) 漁業

・漁獲量及び漁業経営体数

日向灘沿岸のうち、延岡市と日南市の漁獲量が特に多く、県全体の約8割を占めている。

経営体数が比較的多い市町は、延岡市、日向市、川南町、宮崎市、日南市、串間市であり、漁獲量及び経営体数ともに多い市町は、延岡市と日南市である。

資料：宮崎県統計年鑑(平成25年度)¹⁶⁾、平成24～25年 宮崎農林水産統計年報¹⁷⁾

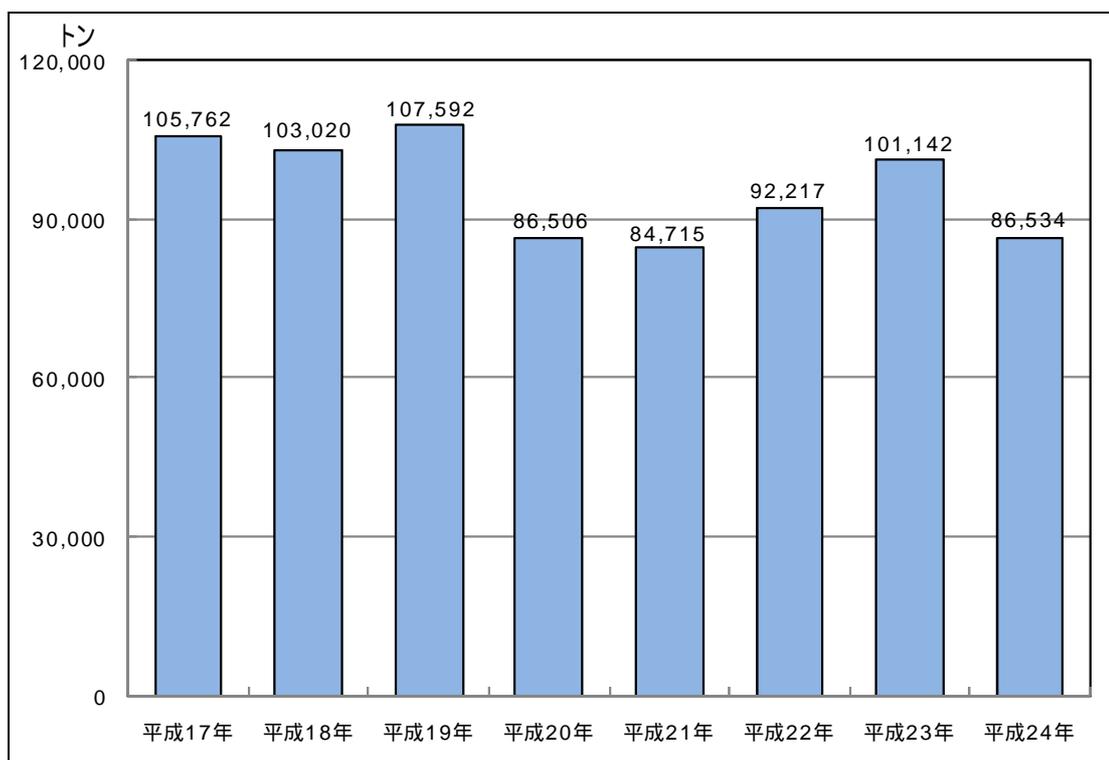


図 - 1.1.8 漁獲量の推移

資料：宮崎県統計年鑑(平成24年度)¹⁵⁾、宮崎県統計年鑑(平成25年度)¹⁶⁾、海面漁業生産統計調査(平成24年度)¹⁸⁾

・漁業権

共同漁業権等の漁業権は県中部の一部の区域を除き県北部から県南部にかけて設定されている。

共同漁業権が設定されている海域では、あわび、さざえ、とこぶし、はまぐり、かき、いせえび、うに、たこ、ほや、わかめ等の漁のほか、小型定置網等が行われ、区画漁業権が設定されている海域では、ぶり等の養殖が行われている。

資料：宮崎県の漁業権 (平成25年9月)¹⁹⁾

4) 港湾

県内には、宮崎港、細島港、油津港の3つの重要港湾をはじめ、16の港湾がある。これらの港湾の平成24年における入港船舶隻数は約28,000隻、また、その取扱貨物量は約13.6百万トンとなっている。このうち、宮崎港が約7.1百万トン（フェリー貨物も含む。）の貨物を取り扱っており、全体の約半分を占めている。

さらに、宮崎港については、神戸を結ぶフェリーが就航しており(平成27年3月現在)、国内航路における乗込者数及び上陸者数ともに最も多い。

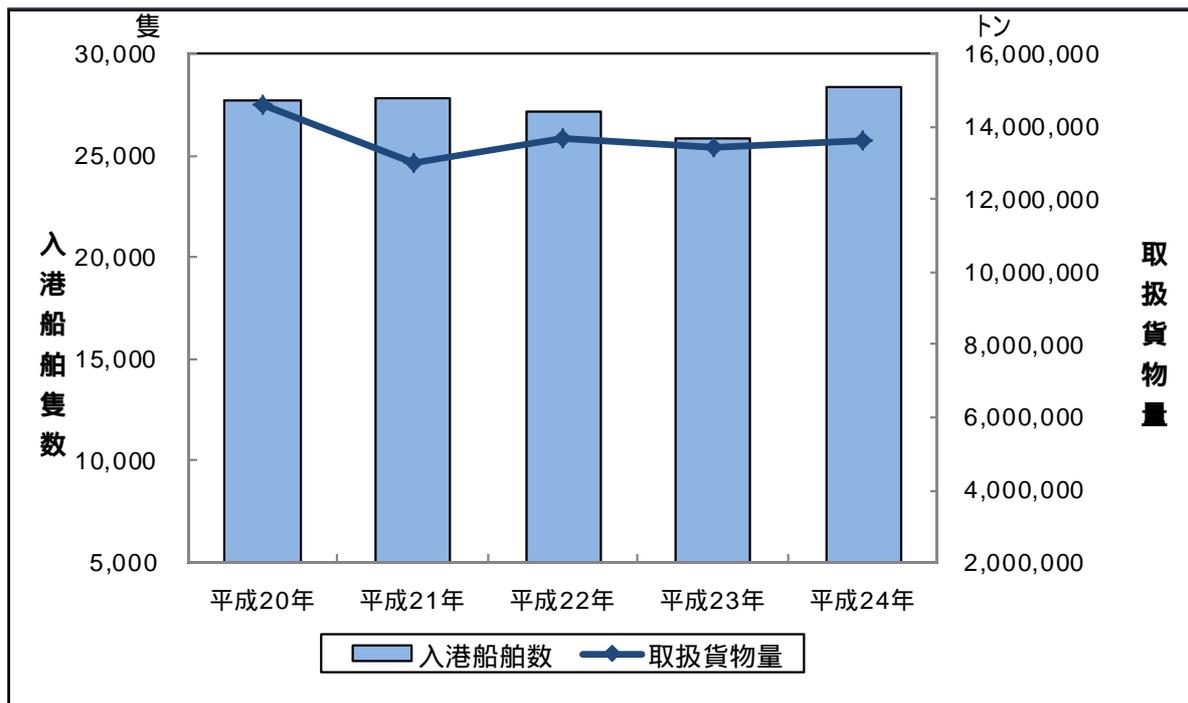


図 - 1.1.9 入港船舶隻数と取扱貨物量の推移

資料：港湾統計(平成20～24年) ²⁰⁾

表 - 1.1.2 港湾別乗降者数 (国内航路)

年次	総数		細島		宮崎		油津	
	乗込	上陸	乗込	上陸	乗込	上陸	乗込	上陸
平成20年	101,168	90,962	-	-	101,168	90,962	-	-
平成21年	94,688	83,498	321	638	94,367	82,860	-	-
平成22年	94,063	81,064	79	-	93,984	81,064	-	-
平成23年	90,739	78,814	-	882	90,739	77,932	-	-
平成24年	90,709	76,296	-	1663	90,709	74,633	-	-

資料：港湾統計(平成20～24年) ²⁰⁾

5)道路網

日向灘沿岸における道路網は、国道が海岸線付近を縦断しており、主要地方道及び一般県道がこれを補充している。

本県では、九州縦貫自動車道、東九州自動車道、九州中央自動車道(九州横断自動車道延岡線)が高速自動車道として位置付けられており、九州縦貫自動車道の北九州～宮崎・鹿児島までの全区間と、東九州自動車道の北九州～清武南間(椎田南～豊前間は除く)、及び九州中央自動車道の延岡～葦田間が供用されている(平成27年4月末現在)。

県北部の道路のうち、遠見山地区海岸付近や、福岡地区海岸付近、かしの浜海岸付近など、延岡市の一部では、海岸線へのアクセスが困難なところもある。

県中部の道路のうち、都農町、川南町、高鍋町では、海岸近くに日豊本線が通っており、これより海岸側に道路が少なく、海岸線にある漁港や港湾、公園等の施設にはアクセスできるものの、都農海岸や川南地区海岸付近など、海岸線へのアクセスが困難なところもある。

県南部は、比較的海岸線に接して道路整備がなされており、日南海岸など優れた海岸景観を堪能できるドライブコースとなっている。

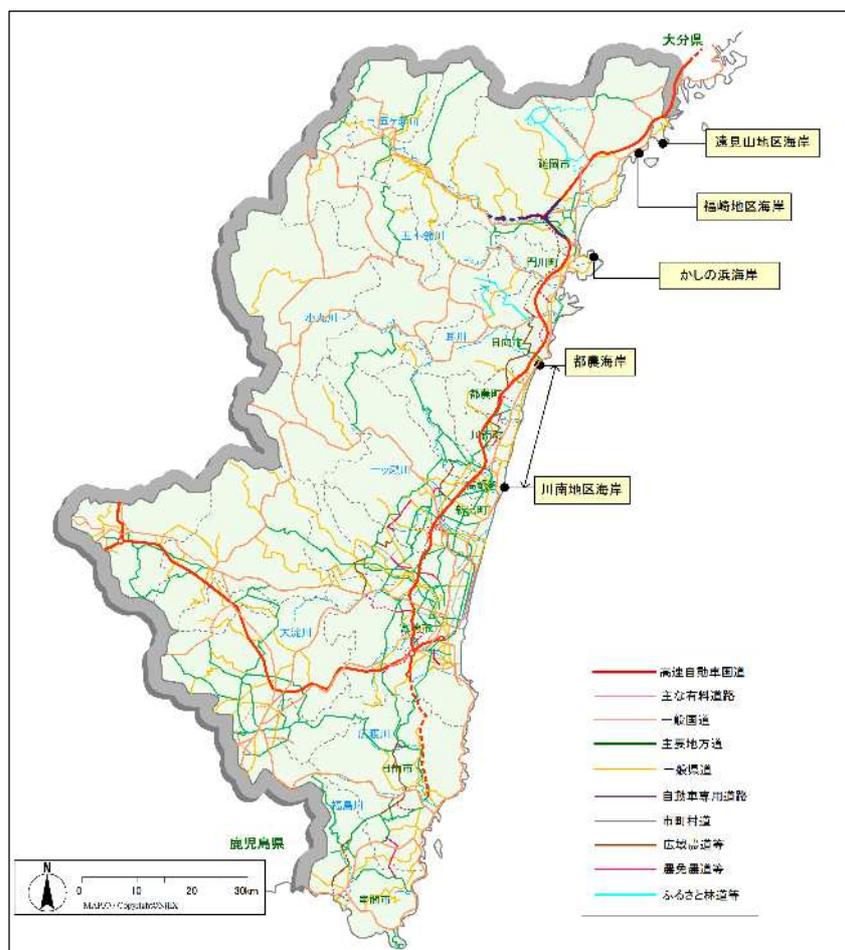


図 - 1.1.10 道路網

資料：航空写真(平成25年)⁸⁾、みやざきの道路2014²¹⁾、宮崎県都市地図 旺文社²²⁾



図 - 1.1.11 九州の高規格幹線道路網状況

資料：道路建設課資料²¹⁾

6) 鉄道網

日向灘沿岸では、海岸線近くを日豊本線が走っており、北は北九州、南は鹿児島に至る。また、宮崎から志布志に至る海岸線近くには日南線が通っている。

日豊本線については、美々津港の南側（日向市・都農町の境よりやや北側）から、小丸川河口付近（高鍋町・新富町の境よりやや北側）の区間で、ルートが海岸線に接近しており、日南線については、油津港の南側から猪崎を除く細田川河口までの区間でも、ルートが海岸線に接近している。



図 - 1.1.12 日向灘沿岸における鉄道網

資料：宮崎県都市地図 旺文社²²⁾、各土木事務所管内図²³⁾

7)天然記念物等の文化財や神話・伝説

日向灘沿岸には、大御神社や油津赤レンガ館などの登録文化財や、幕末勤王家海賀宮門外二士の墓や旧藩都農牧駒追込場跡、狐塚古墳などの県指定史跡のほか、歴史民俗資料館を含む日向市美々津重要伝統的建造物群保存地区などがある。また、青島亜熱帯性植物群落や都井岬ソテツ自生地などの国指定特別天然記念物や、日向灘沿岸で確認されたカラスバト、カンムリウミスズメなどの国指定天然記念物のほか、権現崎の照葉樹林や鶴戸千畳敷奇岩などの県指定天然記念物がある。また、平成26年3月には、日南市の「猪崎鼻の堆積構造」が国の天然記念物に指定されている。さらに、青島では海幸彦と山幸彦、鶴戸神社では鶴戸の窟、美々津では神武天皇のお舟出などの神話や伝説が伝承されているほか、山幸彦にまつわる青島神社で裸祭などの祭事も行われているなど、「神話と伝説のふるさと」と称される本県ならではの歴史や文化がある。



図 - 1.1.13 天然記念物等の文化財分布

資料：平成24年宮崎県観光入込客統計調査結果²⁴⁾、宮崎県の保護上重要な野生生物2010年度版²⁵⁾、みやざきひむか学ネットHP²⁶⁾、ひむか神話街道HP²⁷⁾、みやざき文化財情報HP²⁸⁾、各市町HP²⁹⁾

表 - 1.1.3 日向灘沿岸における国・県指定文化財等

区 分		施設等名称
天然記念物	国指定	特別天然記念物 内海のヤッコソウ発生地、青島亜熱帯性植物群落、都井岬ソテツ自生地、
		天然記念物 高島のピロウ自生地、青島の隆起海床と奇形波蝕痕、古江のキンモクセイ、内海のアコウ、 虚空蔵島の亜熱帯林、幸嶋サル生息地、岬馬及びその繁殖地、石波の海岸樹林、 カンムリウミスズメ、カラスバト、オカヤドカリ、猪崎鼻の堆積構造、ヘゴ自生北限地帯
	県指定	鵜戸千畳敷奇岩、アカウミガメ及びその産卵地、権現崎の照葉樹林
国指定名勝		妙国寺庭園
県指定名勝		乙島、橋口氏庭園
県指定史跡		幕末勤王海賀宮門外二士の墓、有栖川征討総督宮殿下御本営遺跡、僧日要の墓、 旧藩都農牧駒追込場跡、都農町古墳、南浦村古墳、狐塚古墳、細島町古墳、高鍋町古墳、 青島村古墳、東郷村古墳、美々津町古墳、本城村古墳、門川町古墳、下弓田遺跡、都井村古墳
国登録文化財		大御神社(本殿・幣殿・拝殿)、杉村金物本店主屋、杉村金物本店倉庫、油津赤レンガ館、 旧河野宗泰家主屋及び炊事場、堀川橋(乙姫橋)、堀川運河護岸、広渡川石堰堤、花峯橋、 旧伊東家別荘、鈴木旅館、旧外山医院、満尾書店、渡邊家住宅、旧服部家別荘
県指定有形文化財		鵜戸神宮本殿
県指定無形文化財		美々津手漉き和紙
国選定		日向市美々津重要伝統的建造物群保存地区
その他		宮野浦八十八ヶ所、仏舍利塔、立磐神社、廻船問屋「河内屋」跡、青島神社、鵜戸神宮、 御崎神社、日知屋城跡

海岸環境特性

1) 景勝地

日向灘沿岸の県北部及び南部では、リアス式海岸が生み出す優れた海岸景観を楽しむことができ、県中部では長大な砂浜から太平洋への眺望を楽しむことができる。

県北部は、日豊海岸国定公園に指定され、リアス式海岸の複雑な地形が景勝地を生み出しており、高島や島野浦島、及び島野浦島の南側に位置する沖の小島、日豊海域公園地区、県指定名勝で暖地性植物樹林で被われた無人島である乙島、馬ヶ背の柱状節理、権現崎公園などの景勝地がある。

県中部では、直線的な海岸に景勝地が点在しており、伊倉浜自然公園、観音山公園などがある。また、松林と砂浜が形成する“白砂青松”や雄大な海への眺望が確保された長大な砂浜なども、主要な海岸景観の1つである。

県南部は、日南海岸国定公園に指定され、青島やこれに続く鬼の洗濯板といわれる隆起海床と奇形波蝕痕、鶴戸神宮、大島や幸島などの離島の緑と海の青さが融合した眺望、日南海域公園地区、天然記念物にも指定されている都井岬ソテツ自生地などの景勝地がある。

なお、宮崎県では、これらの優れた景勝地の沿道において、全国に先駆けた「沿道修景美化条例」などに基づき、美化を長年にわたって推進しており、ドライブコースにもなっている日南海岸などの優れた海岸景観が創出されている。

さらに、平成18年1月、国土交通省は、日本型のシーニック・バイウェイとして日本風景街道を全国で72ルート選定した。宮崎県と大分県の“海道”国道388号を中心とした「日豊海岸シーニック・バイウェイ(蒲江・北浦大漁海道)」および宮崎市、日南市、串間市の日南海岸を中心とした「日南海岸きらめきライン」の2ルートがこれに選定されている。



図 - 1.1.14 日向灘沿岸における景勝地

資料：みやざき文化財情報 HP²⁸⁾、各市町 HP²⁹⁾、みやざき観光情報旬ナビ HP³⁰⁾、日本風景街道 HP³¹⁾

2)生物相

.植物

県北部では、リアス式海岸と砂浜が発達しているため、様々な植生が見られる。島野浦島や浦城、土々呂などには、ハマサジなどの塩沼地植生が小面積ながら残されている。また、延岡、長浜、お倉ヶ浜には、コウボウムギのような砂地に生育する砂丘植生が発達している。さらに、土々呂から細島にかけての礫質海岸には、チガヤ - ハマゴウ群集などの植生がある。海岸風衝地には、マサキ - トベラ群集などが生育している。

県中部では、ほぼ全域が砂浜となっているため、砂丘植生が発達している。砂丘植生の最前線には季節によってハマヒルガオ群集が見られる。その他、コウボウムギ群集、ケカモノハシ群集、チガヤ - ハマゴウ群集などが帯状に生育分布している。砂丘背後地はクロマツ植林地となっている。

県南部では、県北部と同様、リアス式海岸と砂浜が発達しているため、様々な植生が見られる。礫質海岸には、チガヤ群集などの植生がある。海岸風衝地には、マサキ - トベラ群集などが生育している。その他、チガヤ群集などが生育している。

日向灘沿岸において、天然記念物となっている植物及び群落は10箇所あり、内海のヤッコソウ発生地や青島亜熱帯性植物群落、都井岬ソテツ自生地などがある。

群集...ある地域の植生を比較・分類するときの単位。優占する1~2種の種名を代表させて「チガヤ - ハマゴウ群集」といったように名づける。

資料：みやざき文化財情報HP²⁸⁾、自然環境保全基礎調査 植生調査情報提供HP³²⁾、河川整備計画資料³³⁾

.動物

日向灘沿岸の鳥類では、カンムリウミスズメなどが、また、陸産貝類では、コベソマイマイやコシタカシタラガイなどが確認されている。トンボ類では、コフキイトンボやキイトンボなどが、また、甲虫類では、ケシゲンゴロウやマメガムシ、シコクヨツシジハナミカリなどが確認されている。蝶類では、ミカドアゲハやルリシジミ、ヤマトシジミなどが、また、ツクシアオリンガやオオトモエなどが確認されている。

資料：宮崎県の保護上重要な野生生物 2010年度版²⁵⁾

3)希少種

絶滅危惧種及び準絶滅危惧種等

a.動物

県北部における動物の絶滅危惧種は、鳥類ではクロツラヘラサギやカラスバト、コアシサシ、ヨシゴイ、ホウロクシギなどが、また、底生動物では、熊野江川河口の干潟において、当該河川がタイプ産地であるクマノエミオスジガニが生息するほか、浦城湾や妙見湾においても広大な干潟環境が形成され多様な底生動物相を育てている。魚類については、塩見川や赤岩川河口のコアマモ群落でアカメ等が生息している。準絶滅危惧種では、鳥類はハヤブサやクロサギ、ミサゴ、ヒクイナなどが、また、底生動物では、妙見湾の干潟や熊野江川河口のヨシ原にフトヘナタリなどの貝類が生息している。魚類については、五ヶ瀬川などの河口域でカワアナゴなどが確認されている。

県中部における動物の絶滅危惧種では、鳥類はツクシガモやズグロカモメ、チュウヒ、クロツラヘラサギ、トビハゼ、コアシサシ、ヨシゴイ、ホウロクシギなどが、また、底生動物については、清武川や加江田川の干潟においてシオマネキなどの甲殻類が生息しており、コアマモ群落やヨシ原が分布する浅場にはアカメ等の魚類が確認されている。準絶滅危惧種では、鳥類はハヤブサやクロサギ、ミサゴ、ヒクイナなどが、底生動物では、一ツ瀬川河口のヨシ原にフトヘナタリなどの貝類が生息している。また、魚類では一ツ瀬川などの河口域でカワアナゴなどが確認されている。

県南部における動物の絶滅危惧種では、鳥類はカラスバト、ツクシガモなどが確認されており、底生動物では、福島川河口の干潟において、シオマネキなどの甲殻類が生息しており、汽水域やアマモ場等ではアカメ等の魚類が確認されている。準絶滅危惧種では、鳥類はミサゴ、クロサギ、ヒクイナなどが確認されており、底生動物では、福島川河口の干潟でハクセンシオマネキが、魚類ではヤマトイトヒキサギなどが確認されている。

資料：宮崎県の保護上重要な野生生物 2010 年度版²⁵⁾、河川整備計画資料³³⁾

b.植物

県北部における植物の絶滅危惧種は、シオミカリソウやオオバネムノキ、ハマツナ、ハマナツメ、ウラギクなどが確認されている。準絶滅危惧種では、コアマモやハマボウ、ハマサジなどが確認されている。

県中部における植物の絶滅危惧種は、チャボイやカワツルモ、グンバイヒルガオなどが確認されている。準絶滅危惧種では、ハマボウやイセウキヤガラ、ウバメガシなどが確認されている。

県南部における植物の絶滅危惧種は、イモネヤガラやオキナワチドリ、ハマナツメなどが確認されている。準絶滅危惧種では、ハマボウやコアマモ、キイレツチトリモチ、ヤタベグサなどが確認されている。

資料：宮崎県の保護上重要な野生生物 2010 年度版²⁵⁾、第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査(藻場調査)

報告書(平成 20 年 9 月)³⁴⁾

・希少な植物群落

県北部における希少な植物群落は、高島のピロウ群落や島野浦島や浦城の塩沼地植生、土々呂のウバメガシ群落、余島周辺の海岸樹林群落、権現崎の海岸南限植物群落などがある。

県中部における希少な植物群落は、都農町～宮崎市にかけての海浜植物群落、高鍋町のゲンバイヒルガオ群落などがある。

県南部における希少な植物群落は、平山の海岸樹林群落や築島の亜熱帯植物群落、石波海岸のハマナツメ群落及び海岸樹林群落、都井岬のススキ・シバ群落などがある。

資料：宮崎県の保護上重要な野生生物 2010 年度版²⁵⁾

4)アカウミガメ上陸・産卵状況

日向灘沿岸におけるアカウミガメの上陸・産卵は5月～9月頃に見られ、沿岸の多くの砂浜で確認されている。

県北部及び南部と県中部を比較すると、長大な砂浜海岸を有する県中部では、上陸数・産卵数ともに多く、平成25年度では、約3,400回を超える上陸があった。特に、宮崎市では1,800回の上陸数がある。

日向灘沿岸全体での上陸・産卵数の推移では、平成元年(1989年)から平成19年(2007年)頃は、500～1,500回で推移していたが、平成20年(2008年)以降は年度により増減はあるものの、増加傾向にあり、平成25年度が最も多く、上陸・産卵がみられる。車の乗入禁止や海岸清掃、監視活動、広報による呼びかけ等の対策を行っている海岸がある一方、砂浜の侵食の進行による産卵地の減少や野犬等による被害が見られる海岸もある。日南市においては、水没等から保護するため市営の孵化場を整備し、産卵された卵の移植を行っている。また、延岡市では、産卵された卵の安全な場所への移植を行うなど、保護活動を行っている。

なお、アカウミガメは、「絶滅のおそれのある野生動植物の国際取引に関する条約」(通称ワシントン条約)において、最も絶滅の危険が高いとされるグループ(附属書Ⅰ)に含まれているほか、「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(1998年)」では希少種として、また、環境省レッドリスト(平成24年公表)のカテゴリーでは絶滅危惧ⅠB類(EN)、宮崎県の保護上重要な野生生物(2010年度版)では準絶滅危惧(NT-g)に位置付けられている。さらに、昭和55年には県指定天然記念物となっている。以上のように、アカウミガメは、国内だけでなく世界的にも最も希少な生物として位置付けられている。

表 - 1.1.4 平成 25 年度におけるアカウミガメ上陸・産卵回数

区分	上陸	産卵	産卵率	市町	上陸	産卵	摘要
県北部	270	159	59%	延岡市	165	95	方財、長浜、新浜、下阿蘇
				門川町	5	5	向ヶ浜
				日向市	100	59	鶴戸の瀬、小倉ヶ浜、金ヶ浜、美々津
県中部	2,760	1,814	66%	川南町	44	33	伊倉ヶ浜
				高鍋町	182	118	堀之内
				新富町	734	587	富田浜
				宮崎市	1,800	1,076	一ツ瀬南、大炊田、明神山、住吉、一ツ葉、人工ビーチ 大淀川北浜海岸、空港北浜、松崎、運動公園、こどものくに、白浜/小内海
県南部	377	242	64%	日南市	160	113	鶯巣、伊比井、富士、宮浦、風田・平山、梅ヶ浜、大堂津
				串間市	217	129	藤、石波、恋ヶ浦(大納)、下千野(港)、今町、長浜(高松)
合計	3,407	2,215	65%	合計	3,407	2,215	

資料：宮崎県の保護上重要な野生生物 2010 年度版²⁵⁾、ワシントン条約附属書³⁵⁾、アカウミガメ上陸・産卵状況資料³⁶⁾

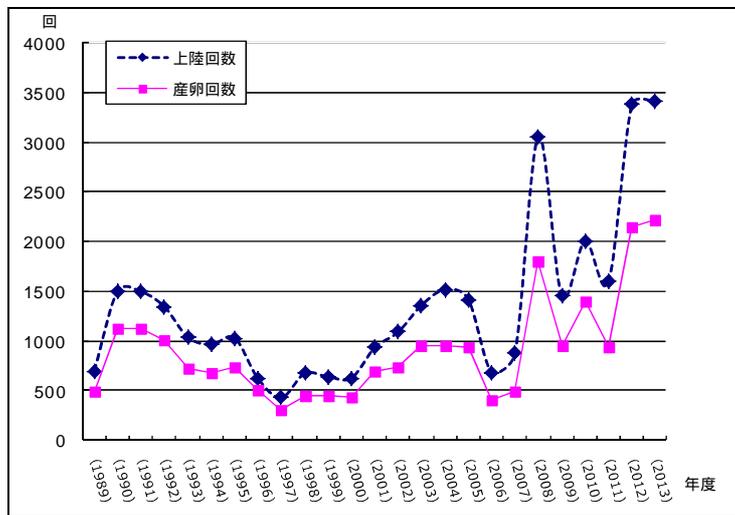


図 - 1.1.15 日向灘沿岸におけるアカウミガメ上陸・産卵回数の推移

資料：アカウミガメ上陸・産卵状況資料³⁶⁾

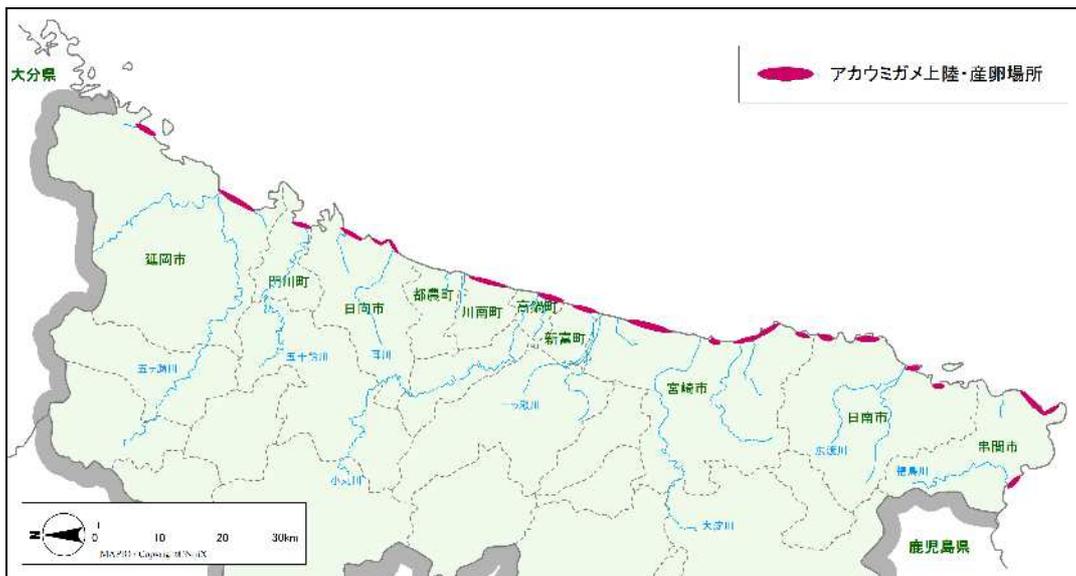


図 - 1.1.16 アカウミガメ上陸・産卵場所

資料：アカウミガメ上陸・産卵状況資料³⁶⁾

5) 海岸漂着物処理推進の取組

台風などの自然災害による流木や海を漂流して流れ着いたごみや、レジヤードなどで発生し海岸に散乱しているごみの増加を背景として、平成21年7月15日に、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」(海岸漂着物処理推進法)が公布・施行され、海岸管理者による円滑な処理責任や、市町村の協力義務などの基本的な方針が示された。

これを受けて、本県の地域特性を踏まえた総合的かつ効果的な海岸漂着物対策を推進するため、平成23年3月「宮崎県海岸漂着物対策推進地域計画」を策定した。同計画では、海岸漂着物の処理を重点的に推進する地域として、「重点区域」を設定している(重点区域延長約311km/海岸線延長約400km)。

なお、海岸管理者及び沿岸市町村に対するアンケートによれば、海岸漂着物として把握されているものは、「流木・灌木等」、「プラスチック類」、「発泡スチロール類」、「金属類」、「その他人工物」の5種類となっている。また、災害時(台風襲来等)における海岸漂着物年間推計量は、「流木・灌木等」が約24,300 m³(全国平均の5.8倍)、「プラスチック類」が約1,200 m³(全国平均の0.2倍)であり、本県では「流木・灌木等」に的を絞った海岸漂着物対策が必要であると考えられる。

資料：宮崎県海岸漂着物対策推進地域計画(平成23年3月25日)³⁷⁾



図 - 1.1.17 海岸漂着物処理の重点区域

資料：宮崎県海岸漂着物対策推進地域計画(平成23年3月25日)³⁷⁾

海岸利用特性

1) プレジャーボートの推移

宮崎県内のプレジャーボートの総隻数は、平成 11 年の 2,972 隻から平成 14 年には 4,189 隻と大きく増加しており、その後、平成 18 年 3,718 隻、平成 22 年 3,787 隻とやや減少している。

県では、遊泳者とプレジャーボートの間の事故の防止等を目的として、「宮崎県遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」を平成 4 年に制定し、平成 19 年 3 月には、プレジャーボートの適正な管理及び利用を図るために「宮崎県プレジャーボート対策基本方針」を策定した。さらに、港湾・漁港においては、平成 22 年度より順次管理条例を改正し、放置等禁止区域、許可係留区域等の設定を進めている。平成 26 年 7 月時点におけるプレジャーボート許可制度導入状況は、許可制を導入した港湾は、高鍋港を除く 15 港湾中 14 港湾であり、漁港は、23 漁港中 20 漁港である。

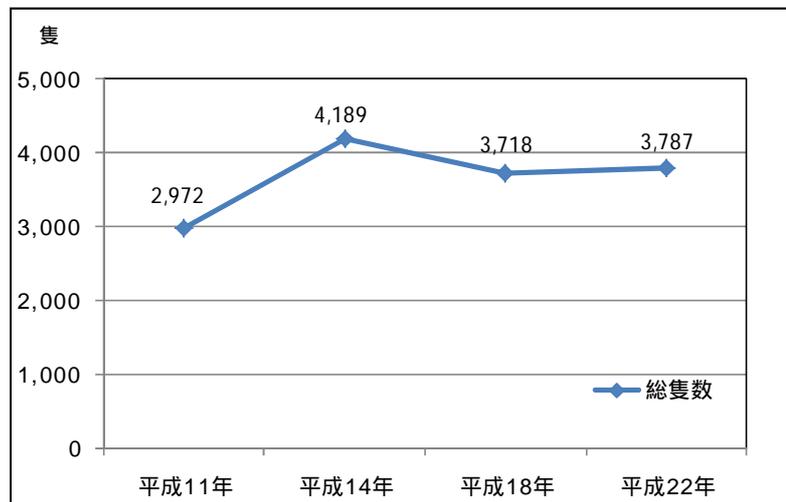


図 - 1.1.18 宮崎県におけるプレジャーボート総隻数の推移

資料：港湾課資料(平成 11 年度)³⁸⁾、全国プレジャーボート実態調査結果(平成 14 年、平成 18 年、平成 22 年)³⁹⁾

2)海洋性レクリエーションスポット・エリアの分布状況

海洋性レクリエーションのスポット・エリアは、海水浴、釣り、ダイビング、サーフィン、潮干狩りなど多岐にわたり、沿岸に広く分布している。

海水浴場は、県北部では下阿蘇海水浴場や伊勢ヶ浜海水浴場など7ヶ所、県中部では高鍋海水浴場とサンビーチツ葉の2ヶ所、県南部では青島海水浴場、大堂津海水浴場など6ヶ所となっている。

サーフINGは、県北部のお倉ヶ浜や金ヶ浜、県中部の蚊口浜、伊倉浜、木崎浜、県南部の青島や昭寿園、梅ヶ浜、恋ヶ浦などで楽しまれているが、特にお倉ヶ浜、蚊口浜、木崎浜、青島、昭寿園などではサーフING大会が開催されている。また、波の状況によっては、上記以外のエリアでのサーフING活動も見られる。

ダイビングは、県北部では島野浦島周辺や浦城湾、県南部では日南海域公園地区や栄松ビーチ海水浴場などで楽しまれている。マリナーについては、県中部の人工海浜南側に位置する「サンマリナー宮崎」の1ヶ所となっている。

潮干狩りについては、県北部の妙見浜や、県中部における高鍋海水浴場、日ノ出海岸、富田漁港海岸、加江田川河口などで行われている。

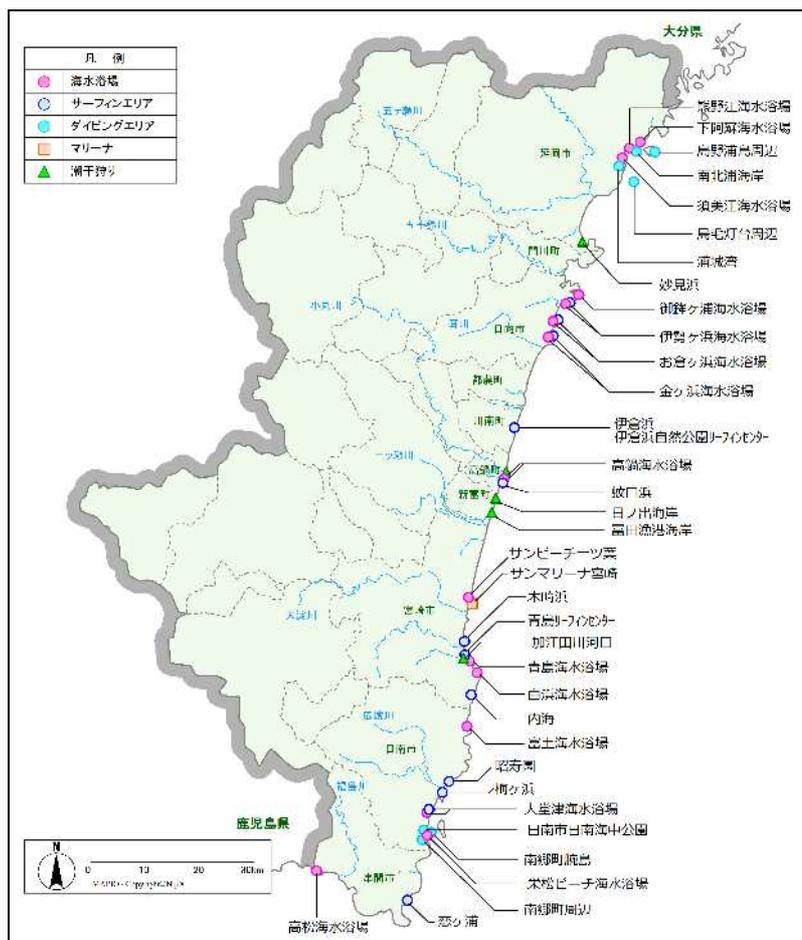


図 - 1.1.19 海洋性レクリエーション活動場所分布状況

資料：各市町HP²⁹⁾、みやざき観光情報旬ナビHP³⁰⁾

3)釣りポイント

釣りポイントは、非常に多く存在しており、約 145 ヶ所を数える。日向灘沿岸全体に分布しているが、県北部で 50 ヶ所、県南部で 55 ヶ所と比較的多く分布している。砂浜が多い県中部では 17 ヶ所と比較的分布が少ない。

資料：2010 年版 宮崎県観光要覧⁴⁰⁾

4)観光スポット・イベント開催場所分布状況

・観光スポット

日向灘沿岸における観光スポットは、天然記念物や海水浴場等と同一となっているものも多い。

県北部では島野浦島のピロウ自生地や須美江家族旅行村のほか、道の駅北浦、乙島、日向サンパークオートキャンプ場など 19 ヶ所ある。県中部では富田浜公園、九州・沖縄サミット宮崎外相会合などが開催されたシーガイアなど 12 ヶ所ある。県南部では、青島、鵜戸神宮、堀川運河、栄松ビーチ・キャンプ場、猪崎鼻公園、都井岬灯台、志布志湾大黒イルカランドなど 17 ヶ所ある。

・イベント開催

日向灘沿岸におけるイベントは、青島太平洋マラソンや都井岬火まつりなど、前述の観光スポットにおいて開催されているものや、門川の納涼花火大会や宮崎みなとまつりなど、既存の施設を利用して行われているものがある。

県北部では、門川みなとフェスティバルや細島みなと祭りなど 7 のイベント開催が見られ、県中部では宮崎みなとまつりなど 5 のイベント開催が見られる。県南部では、なんごう黒潮まつりや福島港花火大会など 8 のイベント開催がある。

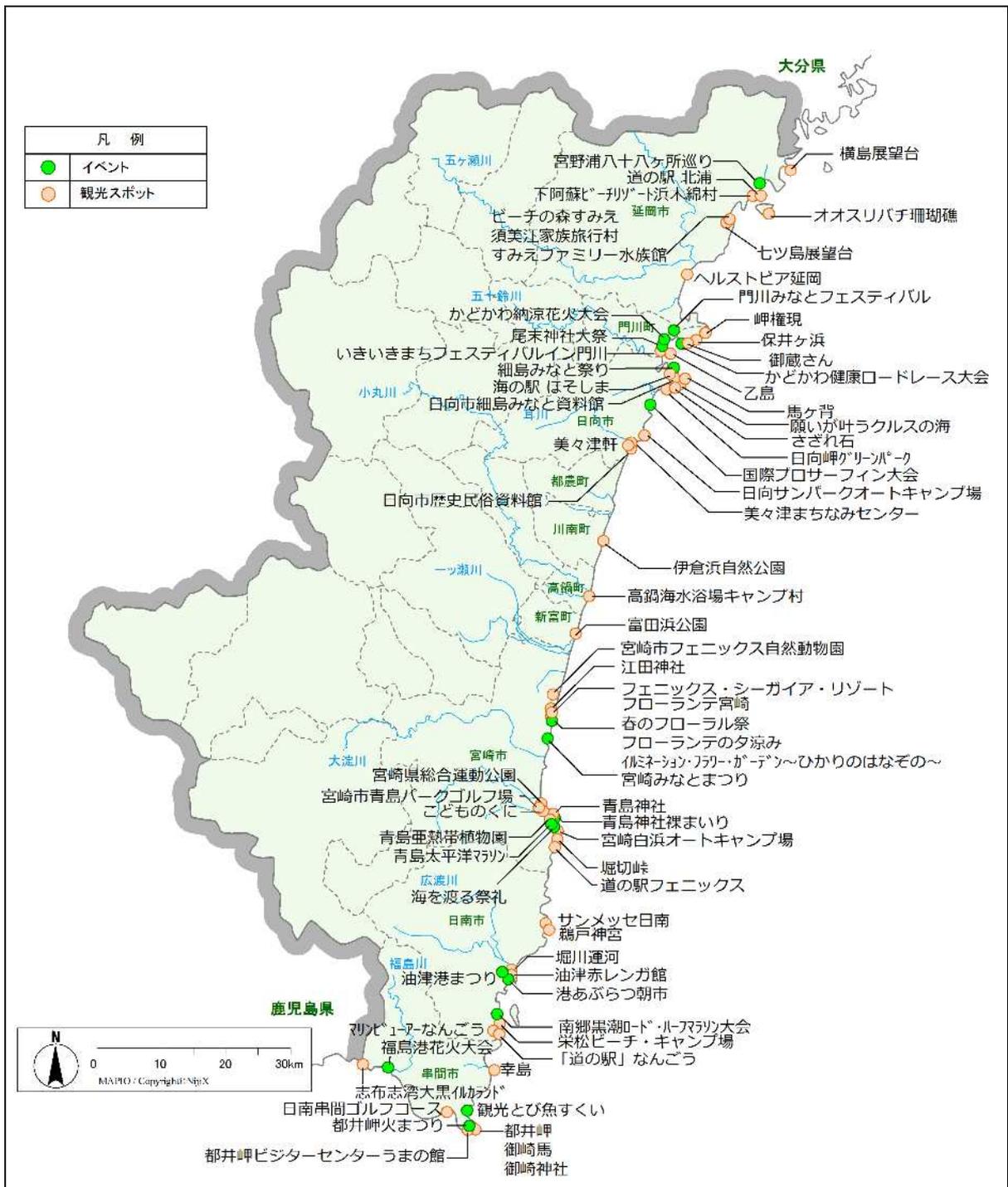


図 - 1.1.20 観光スポット・イベント開催場所分布

資料：各市町 HP ²⁹⁾、みやざき観光情報旬ナビ HP ³⁰⁾

5) 渚の交番プロジェクト

宮崎市青島では地域に根ざし「安心、安全、きれいで楽しい海を創る」渚の交番プロジェクトが全国に先駆けスタートしている。同プロジェクトは、日本財団の支援により立ち上げられ、平成22年6月、宮崎市の青島海水浴場で渚の交番第1号がオープンした。

渚の交番の活動内容は、地元団体と協力した海辺及び地域のパトロールや、地域の人が気軽に集える場の提供、年間をとおして海の安全と安心を守ること、また、地域を元気にするイベントの実施や、海辺の環境や動物の保護・調査活動の実施、様々なスポーツの体験教室の開催などであり、これらの活動をとおして、海を活かした地域づくりを促し、海から地域を元気にすることを目指している。

資料：渚の交番HP⁴¹⁾

海岸保全施設災害と海岸事業

1) 既往災害履歴と実態

下図の 印は、過去に災害が起こった地区を示したものである。

北浦・延岡地区では、延岡市街地の前面に広がる延岡港海岸などにおいて海浜侵食が原因と見られる護岸への被災がある。しかし、この海岸より北側においては特筆すべき被災は記録されていない。

門川・日向地区では、細島港内の護岸及び美々津港海岸の護岸が基礎の洗掘により被災したほか、美々津港海岸の離岸堤が台風の波浪によって沈下するなどの被災をしている。

都農・川南・高鍋・新富地区では、高鍋町で日向灘に流入する小丸川河口部の護岸および離岸堤が度々被災している。被災は主に台風などの高波浪による洗掘あるいは漂砂に起因する護岸の洗掘や離岸堤天端高の沈下である。

宮崎地区では、大淀川の河口部を中心に南北 10km 以上に渡って海岸侵食が顕著となっている箇所があり、近年発生した災害箇所のほとんどはこのエリアに集中している。特に、宮崎海岸(大炊田地区、石崎浜地区、住吉地区)では侵食の進行が著しく、道路や保安林にまで被害が及ぶなど抜本的な対策が必要となったため、現在、直轄海岸保全施設整備事業により侵食対策工事が進められている。また、宮崎海岸(赤江地区、赤江浜)では、台風の来襲に伴う高波浪の影響で、突堤の沈下や、浜崖が大幅に後退する等の被害が発生したため、人工リーフ工法による災害復旧事業を行った。

日南地区は、台風期の高波浪を最も受けやすい地形条件の箇所が多く、護岸及び消波工等の被災した箇所が点在している。また、背後に高台(断崖)が迫っていることから山崩れなどによる二次的な被災事例もある。しかし、近年は、被災が少なくなっている。

串間地区では、主に福島港の周辺にある海浜の侵食による護岸及び突堤の被災事例がある。



図 - 1.1.21 既往災害箇所(S47~H25)

資料：港湾・海岸構造物被災施設に関する調査票(昭和47年~平成9年)⁴²⁾

海岸保全施設調査書⁴³⁾、河川課資料(平成15~25年)⁴⁴⁾

2)海岸事業の実態

・護岸

延岡地区では、一部に天端高の低い護岸もあるが、南からの高波浪が遮蔽されるよう施工されている。構造様式は直立式を基本としつつ、海水浴場として利用されている箇所では緩傾斜式が、また、背後に道路や民家が迫っている箇所では消波工が施工されている。

門川・日向市地区では、構造様式は港湾内が直立と消波工タイプ、小倉ヶ浜と美々津港海岸では緩傾斜式となっており、海岸利用者が海側にアクセスしやすくなっている。

都農・川南・高鍋・新富地区では、直立と消波工タイプが主体で、一部に緩傾斜式も採用されている。この地区は海岸線沿いにJR日豊本線が通っていることから、利用者が海岸へアクセスすることを困難にしている。このため海岸の利用度が低くなっており、護岸整備範囲も海岸延長に対して比較的短いものとなっていて、自然海浜が多く残っている。

宮崎地区では、宮崎港周辺から青島漁港海岸にかけて海岸利用に配慮した緩傾斜式が主体で、断崖地形となる堀切海岸では直立式となっている。この地区は宮崎市の中心部を背後に控え、一ツ葉海岸、青島漁港海岸などの景勝地でもあることから、海岸全体の利用度が高く、また、護岸整備範囲も長くなっており、自然海浜は少なくなっている。

日南地区では、日南海岸として県内有数の断崖地形の景勝地であることから、護岸の構造は直立式と消波工が主体であるが、一部に緩傾斜式も採用されている。また、もともと断崖地形であることから、護岸を必要としない箇所も多く、多くの天然海岸が残されている。

串間地区では、護岸の構造は直立式と消波工が主体であるが、一部に緩傾斜式も設置されている。この地区は、日南海岸から連なる都井岬周辺部まで県内有数の景勝地であり、護岸を必要としない高い断崖地形となっていることから、多くの自然海岸が残されている。

.外郭施設

延岡地区では、古江港海岸(阿蘇地区)に海浜砂の流出防止を目的とした潜堤が設置されているほか、熊野江港海岸および延岡新港海岸では沿岸漂砂の制御を目的とした突堤が設置されている。また、五ヶ瀬川の河口部付近には古くからの突堤が設置されており、これらの施設によって当該地区は高波・高潮や侵食から防護されてきた。

門川・日向地区では、美々津港海岸において離岸堤、突堤および緩傾斜護岸による面的な防護が図られている。

都農・川南・高鍋・新富地区では、川南町の通浜および高鍋町の小丸川河口部付近に離岸堤が設置されている。

宮崎地区では、宮崎港海岸および青島周辺の観光拠点に潜堤、突堤および緩傾斜護岸やスロープなどの海岸施設が総合的に設置されている。また、宮崎海岸(住吉地区)では侵食対策工事として、緩傾斜護岸および離岸堤、宮崎海岸(赤江地区、赤江浜)では人工リーフおよび突堤が設置されている。

日南地区では、日南市の大島付近の本土側において突堤や離岸堤などが整備されている。この区域以外では、岩礁帯が多く特に北側においては“隆起海床と奇形波蝕痕”が多く見られ、地形的な景勝地であり、観光資源の保護を考慮し、沖合施設が計画されることはなかった。

串間地区では、都井岬周辺の集落前面に高波・高潮等を抑止するための離岸堤や突堤が設置されているほか、最近侵食が顕著な福島港の周辺では、侵食を防止するための突堤や潜堤などが設置されている。

.老朽化対策

日向灘沿岸の海岸保全施設は、昭和40～50年代に整備された施設が多く、今後、急速に老朽化が進行することが見込まれるため、海岸保全施設を良好な状態に保つよう、適切な維持・修繕を推進していく必要がある。

日向灘沿岸では、伊比井海岸、風田・平山海岸の2海岸において、老朽化対策事業に着手している。

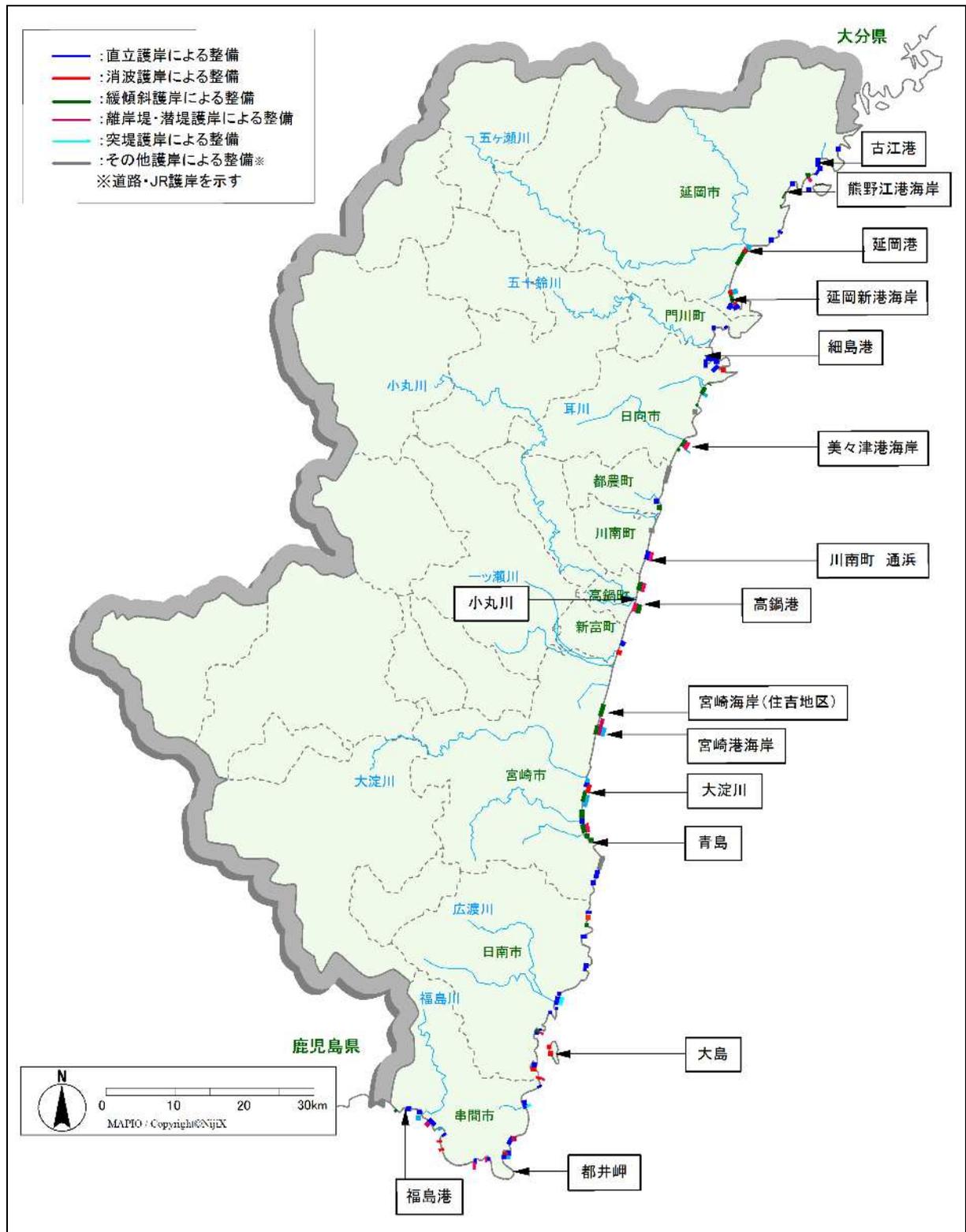


図 - 1.1.22 海岸保全施設の設置状況

3)高潮

日向灘沿岸は、海岸線の屈曲に乏しく深く湾入した地形が少ないため、大規模な高潮に襲われる危険性はきわめて希とされている。なお、本県における高潮災害は、北浦、延岡、土々呂、門川、細島、美々津、内海、油津、目井津、都井、福島などの港湾・漁港や、日南市の風田海岸などで記録されている。

資料：福岡管区気象台要報,24：九州および山口の高潮(1969年)⁴⁵⁾、国土地理院HP⁴⁶⁾、宮崎地方気象台HP⁴⁷⁾

4)地震・津波

日向灘沿岸では、度々、大規模な地震が発生しており、津波も記録されている。

1900年代では12回の比較的規模の大きな地震があり、中でも1941年11月19日に発生した日向灘地震(M7.2)では九州・四国沿岸で最大1mの津波も観測された。また、内陸部においては1968年2月21日に発生したえびの地震(M6.1)で家屋の倒壊、山崩れなどの被害が多かった。

津波被害に着目すると、寛文、宝永、明和、安政東海、安政南海などの歴史地震が挙げられ、比較的大きな河川の河口部において最大5m程度までの津波が襲来したとする現地調査結果が報告されている。

また、北部、南部に点在する入り江(古来からの天然の良港)や小規模な湾でも多くの被害が記録されている。

表 - 1.1.5 日向灘沿岸における主な歴史地震による津波被害

地震名	発生日	マグニチュード	主な被害記録	津波高 (現地調査報告)
寛文	寛文2年9月20日 (1662/10/31)	M 7.6	地盤沈下、田畑の流出・浸水、船舶の破損、死者20名	2～5m
宝永	宝永4年10月4日 (1707/10/28)	M 8.4	河川の逆流、橋梁の大破、堤防の破損、田畑の浸水、家屋の流出、牛馬多数水死、死者14名	2～4.5m
明和	明和6年7月28日 (1769/8/29)	M 7.4	家屋・石垣・道路の破損、憤砂、漁船・漁具の流出。死者の記録はなし	1～2m
安政南海	安政元年11月5日 (1854/12/24)	M 8.4	翌日まで断続的に高潮・津波の被害が発生。家屋の全壊・破損・流出、船舶の流出・破損、道路・橋梁の破損、土地の浸水・消失。死者の記録はなし	2～3m

資料：新収・日本地震史料⁴⁸⁾、九州東部沿岸における歴史津波の現地調査 - 1662年寛文・1769年明和日向灘および1707年宝永・1854年安政南海道地震(1985)⁴⁹⁾

5) 侵食

日向灘沿岸は、志布志湾に面する都井岬から福島高松漁港海岸（串間市）を除き、日向灘に面するほぼ直線状の海岸線である。県北部及び県南部は岬間にポケットビーチ状の砂浜海岸が点在しているのに対して、耳川から青島までの県中部は、砂浜の連続する海岸である。

これまで、過去の空中写真から、延岡港海岸、都農海岸、川南地区海岸、一ツ瀬川から青島までの海岸及び福島港周辺における海岸において侵食が認められてきたが、近年（平成25年）撮影された空中写真と比較した結果、特に、宮崎海岸（住吉地区）以北において侵食が顕著であることが確認できた。



図 - 1.1.23 日向灘沿岸において近年侵食がみられる海岸

資料：航空写真(平成13年、平成15年、平成25年)⁸⁾⁵⁰⁾

6) 地球温暖化に伴う海面水位上昇と台風の強大化

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書によると、世界平均海面水位は、今世紀末までに26～82cm上昇し、世界平均地上気温は0.3～4.8℃上昇することが予測されており、気象変動に伴う台風の強大化等も指摘されている。

地球温暖化に伴う海面水位の上昇や台風の強大化等への対応については、今後、国の方針等が示された段階で、必要に応じて防護水準等の見直しについて検討する。

資料：政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書第1次作業部会報告書⁵¹⁾

沿岸各市町の海岸防災対策

1)沿岸各市町の海岸防災対策の概要

沿岸各市町では、地域防災計画がそれぞれ作成されており、その中で様々な災害に対する予防や応急対策等が定められている。地域防災計画の中で海岸部における防災対策に関する項目について整理すると、表 - 1.1.6 に示すとおりである(平成 27 年 3 月現在)。

海岸部における津波、高潮、越波、侵食及び浸水に対する危険地区については、7 の市町で指定されており、このうち、延岡市が 26 ヶ所と最も多い。また、津波に関しては、各市町において、宮崎県が平成 25 年 2 月に策定した「津波浸水想定」による最大津波高及び津波到達時間を採用している。

なお、各市町は、防災行政無線を災害発生の予防や応急対策のために有効な手段として位置付けて整備を進めている。また、津波災害発生時の避難経路や避難地の確保を図るため、県が策定した「津波浸水想定」に対応したハザードマップの作成が進められている。

表 - 1.1.6 沿岸各市町の海岸における防災対策

市町	海岸での危険地区指定 (危険度・箇所数) ¹				津波に関する事項 ²							公表年次
	津波	高潮	浸水	越波・ 侵食	想定地震	津波到達時間 (津波高+1m) の最短値 ³	津波高の 最大値 ⁴	避難場所 高さ設定	情報伝達 組織設定	予報等 入手先	監視体制 設定	
延岡市			要注意 :26		南海トラフ巨大地震	17分	14m			気象庁		H27.2
門川町			B:1 C:1	A:1 B:1	南海トラフ巨大地震	16分	12m			気象庁 宮崎県 警察		H27.3 (予定)
日向市			B:3 C:4	C:1	南海トラフ巨大地震	17分	15m			気象庁		H27.2
都農町			B:1		南海トラフ巨大地震	20分	15m			気象庁		H27.3 (予定)
川南町			B:1		南海トラフ巨大地震	20分	13m			気象庁 宮崎県 警察		H27.4 (予定)
高鍋町					南海トラフ巨大地震	20分	11m			気象庁		H27.4 (予定)
新富町					南海トラフ巨大地震	21分	10m			気象庁 宮崎県		H27.3 (予定)
宮崎市		B:1		C:3	南海トラフ巨大地震	18分	16m			気象庁		H26.5
日南市	18海岸が海岸保全区域に指定				南海トラフ巨大地震	14分	14m			気象庁		H26.6
串間市		:7			南海トラフ巨大地震	15分	17m			気象庁		H27.3 (予定)

1 「海岸での危険地区指定」の欄におけるA～Cは危険度(Aが最も危険度が高い)を表し、数字は箇所数を示す。

2 表中の「印」は、「設定有り」を示す。

3 「津波到達時間(津波高+1m)」は、海岸線から沖合約30m地点において、地震発生直後から水位の変化が+1mになるまでの時間を示しており、「津波到達時間の最短値」は、市町毎に最も早い値を示している。

4 「津波高」は、海岸線から沖合約30m地点における、津波の水位を標高で示した「津波水位」に、地殻変動量を考慮し、メートル以下第2位を四捨五入し第1位を切り上げた数値を示している。また、「津波高の最大値」は、市町毎に最も高い値を表示している。

2)防災行政無線等の整備状況

・防災行政無線の目的と分類

津波や台風など災害発生時においては、情報を地域住民等に伝達したり、被害状況を把握することなどが重要となるが、そのためのシステムとして防災行政無線が整備されている。

県および、各市町村に設置されている防災行政無線は、津波や台風等の災害時において、防災、救助及び救援、災害復旧等に関する業務を遂行する上で必要な通信を確保することを主な目的として、無線通信ネットワークを形成している。

また、防災行政無線は、県防災行政無線と市町村防災行政無線に分類される。

さらに、市町村防災行政無線は、住民に一齐に情報を伝達する「同報系」と、必要な情報を機動的に収集するための「移動系」、関係機関等と相互に密接な連絡体制を確保するための「地域防災無線」の3つに分類される（表 - 1.1.7 参照）。

表 - 1.1.7 防災行政無線の分類

防 災 行 政 無 線			
県防災行政無線	市町村防災行政無線		
県と市町村及び防災関係機関等の中で、災害情報の収集と伝達を行うことを主な目的として形成されたネットワーク	同報系	移動系	地域防災無線
	県庁や防災関係機関から収集された情報や、これに基づく避難勧告等の市町村独自の判断を地域住民に一齐に伝達するために使用される。	現場から災害情報を市町村役場（災害対策本部等）に伝達したり、他の防災関係機関の移動系無線局との間で通信を行うために使用される。	移動系の機能を持ちながら、関係機関等と相互に密接な連絡体制を確保するために使用される。

防炎行政無線の整備状況

沿岸各市町において、現段階で整備され、また整備が計画されている防炎行政無線の状況は、以下の表 - 1.1.8 のとおりである。

10 市町全てにおいて同報系の防炎行政無線が整備されており、津波予報等を J-ALERT（全国瞬時警報システム）から受信し、自動で沿岸部設置の屋外スピーカーに情報発信するシステムを構築している。

なお、沿岸各市町においては、東日本大震災以降、津波避難を促進するため、沿岸部への防炎行政無線の増設を進めている。

表 - 1.1.8 沿岸各市町における防炎行政無線の整備状況

市町村名	同報系					移動系(地域系を含む)				
	親局	中継局	屋外局		戸別局	自動発信	基地局		陸上移動局	
			アナログ	デジタル			150M	400M	150M	400M
延岡市	4	4	34		5,112			4		199
門川町	1	1		18	-			1		31
日向市	1	5	-	95	210		1	1	66	22
都農町	1	0	36	7	4,060			1		7
川南町	1	0	22		6,300			1		45
高鍋町	1	0	0	38	400			1		45
新富町	1	0	18	0	6,572			1		26
宮崎市	3	2	145	29	143		1	2	78	52
日南市	3	5	113		6,680			4		241
串間市	1	1		69	-					

表中の「自動発信」とは、J-ALERT（全国瞬時警報システム）から津波予報等を受信した場合、自動で同報系に情報を発信する機能を示す。

移動局はアナログのみ

平成 27 年 3 月末現在

屋外スピーカーの整備状況

同報系のシステムにおいては、親局から発信された情報は、最終的には屋外スピーカー等を通じて地域住民に一斉に伝達される。津波の到達時間が極めて短いことから、地域住民への情報伝達が一斉にできる屋外スピーカーは非常に重要である。

そこで、現在沿岸に整備された屋外スピーカーによる情報の到達範囲（音達範囲）について示すと、図 - 1.1.24 のとおりである。これをみると、同報系システムの整備された県内沿岸部区域では、緊急時において地域住民等への一斉の情報伝達がほぼ可能となっていることがわかる。

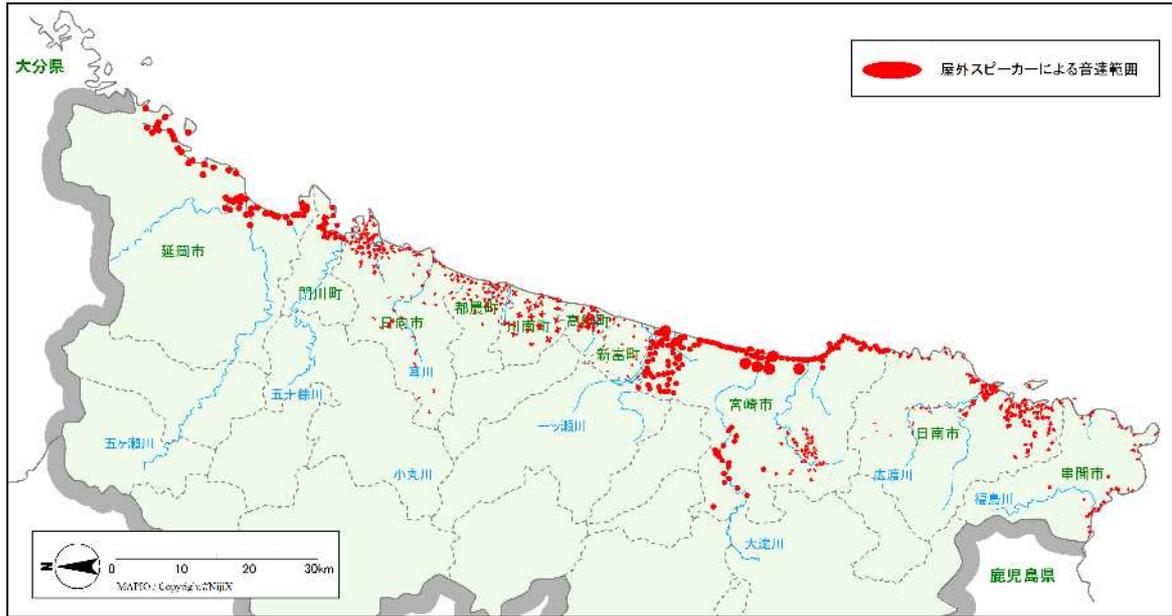


図 - 1.1.24 屋外スピーカーによる音達範囲

資料：各市町資料⁵²⁾

関連する法規制及び諸計画等

1)関連する法規制

・自然公園

日向灘沿岸では、自然公園として、県北部に「日豊海岸国定公園」、県南部に「日南海岸国定公園」がそれぞれ指定されている。

日豊海岸国定公園は、長浜海岸（延岡市）部分を除く延岡市・門川町・日向市の海岸部及び延岡市の山岳部において指定されている。

日南海岸国定公園は、宮崎市南部（清武川以南）・日南市・串間市東部（黒井川河口付近以北）の海岸部を中心に指定されている。

国定公園に指定されている海岸では、複雑な海岸地形のリアス式海岸となっており、優れた景観を形成している。

日豊海岸国定公園では島野浦島の対岸が、日南海岸国定公園では大島付近が海域公園地区として指定されている。

両国定公園内のうち、特別保護地区、特別地域等において工作物の設置、木竹の伐採、土石の採取、土地の形状変更、水面の埋立、広告物の設置等を行う場合には知事の許可（宮崎市内及び日向市内は各市長の許可）が、また、普通地域においても一定規模を超える行為をする場合には知事への届出（宮崎市内及び日向市内は各市町村への届出）が必要である。

資料：土地利用規制ガイド（平成 26 年 7 月）⁵³⁾



図 - 1.1.25 日向灘沿岸に位置する自然公園

資料：生物多様性センターHP⁵⁴⁾、みやぎきの環境HP⁵⁵⁾

文化財保護

日向灘沿岸には、高島のピロウ自生地、内海のアコウなどの天然記念物や鶴戸神宮本殿などの有形文化財が存在するが、これらの現状変更等の行為をする場合には許可や届出が必要であり、具体的には次の表のとおりである。

表 - 1.1.9 指定文化財等についての規制（許可・届出）

種別	内容	法規	該当施設等
国指定史名勝天然記念物についての規制	国の史跡名勝天然記念物に関し、その現状を変更しまたはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。	文化財保護法第125条	内海のヤッコソウ発生地、青島亜熱帯性植物群落、都井岬ソテツ自生地、高島のピロウ自生地、青島の隆起海床と奇形波蝕痕、古江のキンモクセイ、内海のアコウ、虚空蔵島の亜熱帯林、幸嶋サル生息地、岬馬及びその繁殖地、石波の海岸樹林、妙国寺庭園、カムリウミスズメ、カラスバト、オカヤドリ、猪崎鼻の堆積構造、ヘゴ自生北限地帯
国選定建造物群についての規制	(日向市の条例による)	文化財保護法第83条の3	日向市美々津重要伝統的建造物群保存地区
国登録有形文化財についての規制	登録有形文化財に関し、その現状を変更しようとする者は、現状を変更する30日前までに、文部科学省令で定めるところにより文化庁長官にその旨を届け出なければならない。	文化財保護法第64条	大御神社(本殿・幣殿・拜殿)、杉村金物本店主屋、杉村金物本店倉庫、油津赤レンガ館、旧河野宗泰家主屋及び炊事場、堀川橋(乙姫橋)、堀川運河護岸、広渡川石堰堤、花峯橋、旧外山医院、満尾書店、渡邊家住宅、旧伊東家別荘、鈴木旅館、旧服部家別荘
宮崎県指定有形文化財についての規定	宮崎県の指定有形文化財に関し、その現状を変更しまたはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、県教育委員会の許可を受けなければならない。	宮崎県文化財保護条例第14条	鶴戸神宮本殿
宮崎県指定史跡名勝天然記念物についての規制	宮崎県の指定史跡名勝天然記念物に関し、その現状を変更しまたはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、県教育委員会の許可を受けなければならない。	宮崎県文化財保護条例第35条	南浦村古墳、鶴戸千畳敷奇岩、乙島、橋口氏庭園、幕末勤王家海賢宮門外二土の墓、有栖川征討総督宮殿下御本堂遺跡、僧日要の墓、旧藩都農牧駒追込場跡、都農町古墳、アカミガメ及びその産卵地、権現崎の照葉樹林、狐塚古墳、高鍋古墳、細島町古墳、東郷村古墳、青島村古墳、美々津町古墳、本城村古墳、門川町古墳、下弓田遺跡、都井村古墳

資料：土地利用規制ガイド（平成26年7月）⁵³⁾、文化財保護法⁵⁶⁾

鳥獣保護区等

日向灘沿岸における鳥獣保護区は、延岡市の長浜海岸付近や門川町の遠見海岸付近、また、高鍋町、新富町、宮崎市及び日南市の南部に集中して見られるほか、日向市や都農町、串間市の沿岸部にも設定されている。

特定猟具使用禁止区域(銃)は、門川町や日向市及び宮崎市に集中的に存在しており、その他の地域では、延岡市の古江港及び延岡新港付近や、串間市の石波海岸に見られる。

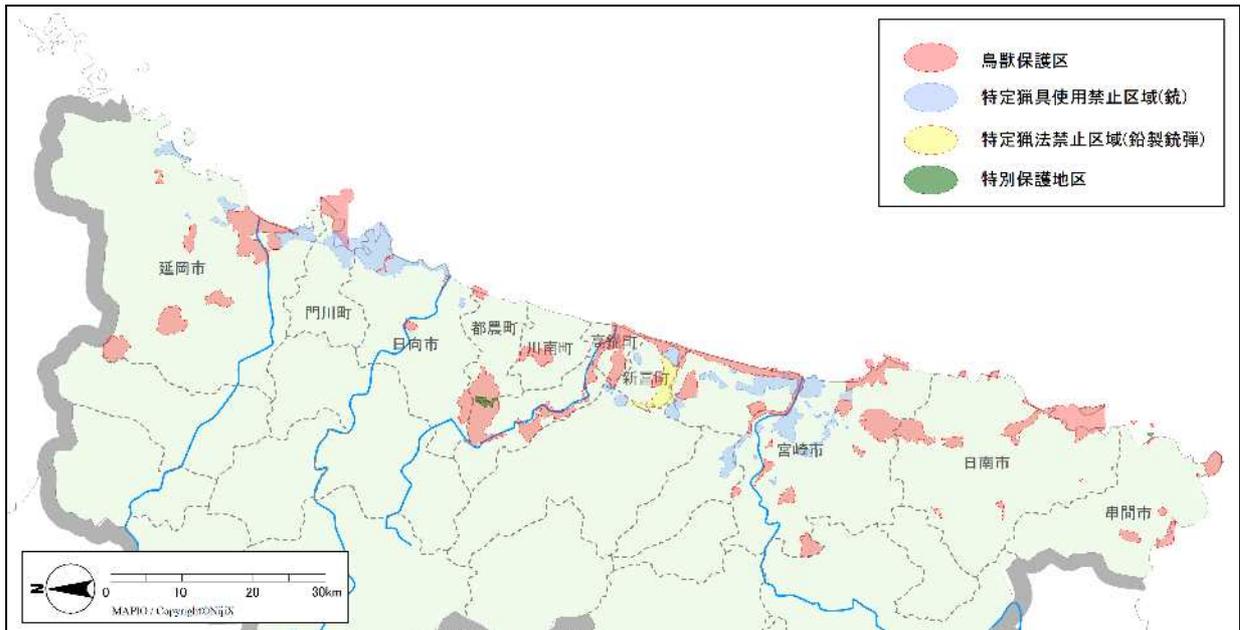


図 - 1.1.26 鳥獣保護区等分布

資料：宮崎県鳥獣保護区等位置図(平成 26 年度) ⁵⁷⁾

保安林

海岸部における保安林は、日南市北部を除くほぼ全域に点在しており、砂浜海岸の背後のみならず、岩礁の海岸背後においても分布している。

・都市計画区域

沿岸各市町における都市計画区域については、延岡市、門川町、日向市、宮崎市に比較的大規模に指定されているほかは、漁港や港湾部分及び河口部において市街地を形成している区域において小規模に指定されている。

市街化区域については、日向延岡新産業都市計画区域ではほとんどが海岸線に接しているが、宮崎広域都市計画区域では海岸線に接している部分は少ない。

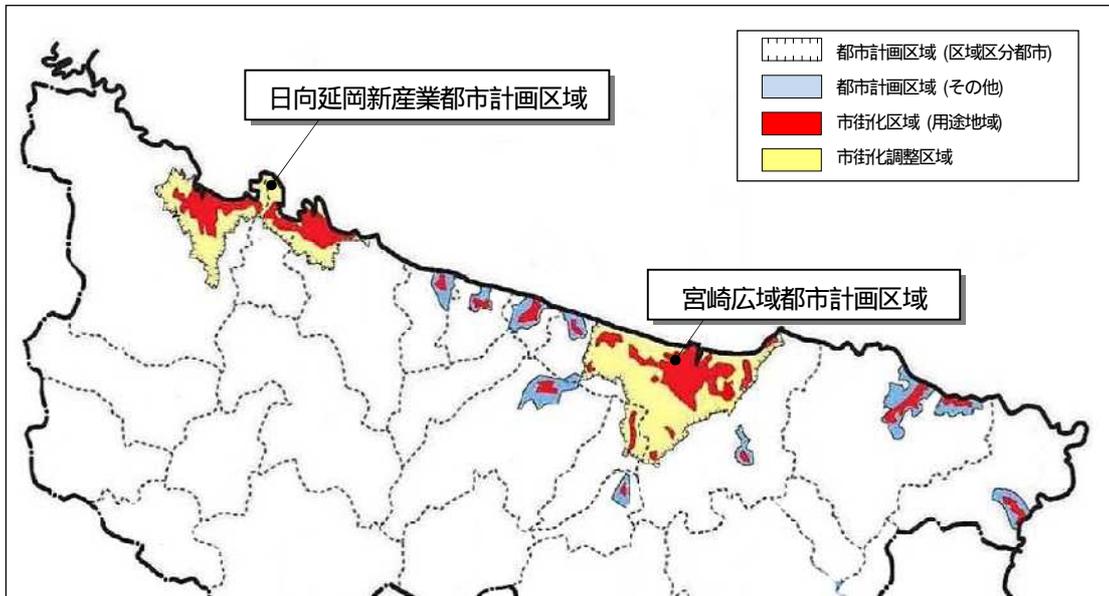


図 - 1.1.27 都市計画区域

資料：宮崎県の都市計画(資料編)(平成 25 年)⁵⁸⁾

・南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法

この法律は、南海トラフ地震による災害から国民の生命、身体及び財産を保護するため、南海トラフ地震防災対策推進地域の指定、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域の指定、津波避難対策緊急事業計画の作成及びこれに基づく事業に係る財政上の特別の措置について定めるとともに、地震観測施設等の整備等について定めたものである。

県内では、全市町村が南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、沿岸 10 市町のすべてが津波避難対策特別強化地域に指定されている。

資料：南海トラフ巨大地震対策特別措置法⁵⁹⁾

・津波防災地域づくりに関する法律

この法律は、将来にわたって安心して暮らすことのできる安全な地域の整備、利用及び保全を総合的に推進することにより、津波による災害から国民の生命、身体及び財産の保護を図るため、市町村による推進計画の作成、津波災害警戒区域による警戒避難体制の整備並びに津波災害特別警戒区域による一定の開発行為及び建築物の建築等の制限に関する措置等について定めたものである。

県内では、現在のところ津波災害警戒区域等の指定は行われていない。(平成 27 年 3 月現在)

資料：津波防災地域づくりに関する法律について⁶⁰⁾

2)関連する諸計画

本計画を策定するにあたり関連する諸計画としては、本計画の上位計画にあたる宮崎県の総合計画を始め、市町村レベルにおいての総合計画や関連計画等がある。以下に、それらの沿岸域に関する計画の概要を整理した。

県レベル

- (1)宮崎県総合計画 未来みやざき創造プラン(長期ビジョン) [平成23年3月]
- (2)宮崎県総合計画 未来みやざき創造プラン(アクションプラン) [平成23年3月]
- (3)宮崎県環境基本計画[平成23年3月]
- (4)宮崎県観光・リゾート振興計画[平成17年3月]
- (5)宮崎県中長期道路整備計画[平成23年3月]
- (6)宮崎県地域防災計画 [平成26年3月]
- (7)新・宮崎県地震減災計画[平成25年12月]
- (8)宮崎県中山間地域振興計画[平成23年9月]
- (9)宮崎県離島振興計画[平成25年7月]
- (10)大隅地域半島振興計画[平成17年12月]
- (11)日向延岡新産業都市計画区域マスタープラン[平成24年3月]
- (12)都農都市計画区域マスタープラン[平成23年4月]
- (13)川南都市計画区域マスタープラン[平成23年4月]
- (14)高鍋都市計画区域マスタープラン[平成23年4月]
- (15)新富都市計画区域マスタープラン[平成23年4月]
- (16)宮崎広域都市計画区域マスタープラン[平成24年3月]
- (17)日南都市計画区域マスタープラン[平成23年4月]
- (18)串間都市計画区域マスタープラン[平成23年4月]
- (19)港湾計画(細島港・宮崎港・油津港) [平成25年10月・平成21年11月・平成27年3月]

市町レベル

- (20)第5次延岡市長期総合計画後期基本計画[平成23年10月]
- (21)第2次延岡市環境基本計画[平成23年3月]
- (22)延岡市都市計画マスタープラン[平成25年3月]
- (23)延岡市景観計画[平成23年4月]
- (24)延岡市地域防災計画[平成26年6月]
- (25)第5次門川町長期総合計画(前期計画) [平成23年3月]
- (26)門川町環境基本計画[平成25年4月]
- (27)門川町地域防災計画[平成27年3月(予定)]

市町レベル

- (28)新しい日向市総合計画・後期基本計画[平成24年3月]
- (29)日向市環境基本計画 中間見直し版[平成24年3月]
- (30)日向市都市計画マスタープラン[平成21年3月]
- (31)細島地区景観計画[平成22年3月]
- (32)日向市景観基本計画[平成20年4月]
- (33)美々の里景観計画[平成24年10月]
- (34)日向市地域防災計画[平成27年2月]
- (35)第五次都農町長期総合計画[平成19年3月]
- (36)都農町地域防災計画[平成27年3月]
- (37)第5次川南町長期総合計画[平成24年3月]
- (38)川南町地域防災計画[平成27年4月(予定)]
- (39)高鍋町総合計画(第五次基本構想・後期基本計画) [平成26年3月]
- (40)高鍋町環境基本計画[平成25年3月]
- (41)高鍋町景観計画[平成25年10月]
- (42)高鍋町地域防災計画[平成27年4月(予定)]
- (43)第5次新富町長期総合計画_基本構想[平成23年6月]
- (44)第5次新富町長期総合計画_中期基本計画[平成26年6月]
- (45)新富町都市計画マスタープラン[平成23年3月]
- (46)新富町地域防災計画[平成27年3月(予定)]
- (47)第四次宮崎市総合計画 改訂版[平成25年3月]
- (48)宮崎市環境基本計画(第2次計画)一部改訂計画[平成25年3月]
- (49)宮崎市都市計画マスタープラン[平成25年3月]
- (50)宮崎市景観計画[平成24年3月]
- (51)宮崎市地域防災計画[平成26年5月]
- (52)日南市総合計画[平成22年3月]
- (53)日南市環境基本計画[平成23年3月]
- (54)日南市都市計画マスタープラン[平成26年3月]
- (55)港町油津 景観計画[平成19年10月]
- (56)日南市地域防災計画[平成26年6月]
- (57)第五次串間市長期総合計画 基本構想・基本計画[平成23年3月]
- (58)串間市地域防災計画[平成27年3月(予定)]

< 上位・関連計画における宮崎県沿岸部の位置付け >

県レベル

良好な自然環境・生活環境の保全(1) 連携・協働による魅力ある地域づくり(1)
安全で安心な県土づくり(1)
施設の長寿命化や予防的な修繕など、計画的な維持管理・更新の推進(1)
本県の優位性やポテンシャルを活かした、個性ある地域づくり、産業づくり(1)
観光、スポーツランドみやざきの推進(1) 危機事象への対応強化(2)
次代へ継承する持続可能な森・川・海づくり(2)
多様な生き物が生息する豊かな自然が保護される持続可能な環境の保全(2)
自然豊かな水辺の保全と創出～自然環境に配慮した海岸づくり～(3)
魅力ある農山漁村づくり(3) 地域の資源を生かした元気な観光地づくり(4)
安全・安心な「暮らし」の確保を支援する道づくり(5) 施設の耐震点検及び各種整備(6)
住民への津波避難に関する普及・啓発、防災教育の推進、津波情報の迅速・的確な伝達の推進(7)
津波避難場所・避難路の確保(7) 避難訓練の実施、訪問者への津波避難の支援(7)
津波を防御する施設の整備(7) 自然災害対策(8) 国土保全施設等の整備(9)(10)
自然災害のおそれのある自然地の積極的保全(11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18)
環境負荷の低減などを担う環境保全系統の自然環境の保全(11) (16)
国定公園など、本県を代表する自然環境と連携しながら、人々の余暇活動に対応できる広域的なレクリエーション系統の自然的環境の保全・活用を促進(11) (16)
環境構成機能の高い緑地の保全(11) (12)
災害防止に寄与する緑地などの保全(11) (12)
アカウミガメの産卵地の保全(13) (14) (15)
豊かな自然的環境や農林水産資源などを活かした交流のまちづくり(14) (18)
砂浜、松林などは、都市を構成する自然的環境として積極的に保全(18)

() 番号はp.50 の各種計画の番号を転記したものです。

市町レベル

- アカウミガメの産卵の場である長浜海岸、新浜海岸、方財海岸の侵食防止(延岡市) (21)
- 美郷町北郷区と連携を図った海岸保全活動組織づくりの推進(門川町) (25)
- 「海の駅ほそしま」を観光拠点と位置づけ、他拠点との連携の強化と、観光客ニーズに的確に対応できる体制を整備(日向市)(28) サーフィン大会の誘致など、観光イベント開催を推進(日向市) (28)
- 観光資源である「金ヶ浜」などにおける流木対策の推進(日向市) (28)
- 都市公園(お倉ヶ浜総合公園)の施設整備(日向市) (29)
- 細島地区における歴史散策等との連携を図った景観形成(日向市) (30)
- 美々津地区における歴史的町並みの再生(日向市) (30)
- みなとフェスティバルなどイベントの交流を図り、日向入郷圏域の文化の創造を推進(日向市) (30)
- 細島商業港のウォーターフロント開発(日向市) (30)
- 日向岬一帯で、東九州の海上流通および海洋性レクリエーションの拠点整備(日向市) (30)
- 日向岬、お倉ヶ浜、金ヶ浜を「海辺の景観拠点」に位置付け、景観と海辺を楽しむ拠点づくりを推進(日向市) (30) 細島地区に点在する景観資源の活用・発掘・育成(日向市) (31)
- 高鍋湿地やアカウミガメの保護活動に携わる人材育成の推進(高鍋町) (39)
- 高鍋海水浴場・キャンプ村への誘客(高鍋町) (39)
- 清掃及び整備を通し「蚊口浦海浜公園」に憩いの場及びレクリエーションの場を形成(高鍋町) (40)
- 「富田浜清掃大作成」の開催(新富町) (45) 富田浜や富田浜入江を活かした街づくり(新富町) (45)
- アカウミガメの産卵地である富田浜と富田浜公園をレクリエーション地区として整備(新富町) (45)
- 新富町の原風景である富田浜入江など、観光・自然・歴史的資源の保全・活用を図る(新富町) (45)
- 富田浜の黒松を中心とした海岸の樹林地の保全(新富町) (45)
- 渡り鳥の飛来地である一ツ瀬川河口の環境を保全(新富町) (45)
- 青島地域活性化基本計画に掲げる重点整備地区の施設整備(宮崎市) (47)
- 佐土原海岸や一ツ葉海岸、空港から青島にかけての海浜、日南海岸の保全(宮崎市) (50)
- 松林、日南海岸方面のフェニックス等の景観要素の保全(宮崎市) (50)
- 津波避難施設の整備(佐土原、赤江、木花、青島など) (宮崎市)(51)
- 「港あぶらつ朝市」「なんごう日の出市」の拡充(日南市) (52)
- 日南海岸一帯の国際級海洋性リゾートゾーンへの位置づけ(日南市) (52)
- 鵜戸神宮、サンメッセ日南、快水浴場百選の富士・大堂津海水浴場、栄松ビーチなどをマリンスポーツ・レジャーの楽しめる観光資源として活用(日南市) (52)
- 油津港を、観光の海の玄関口として確立、観光交流の場としての整備の推進(日南市) (52)
- 港町油津にて日常生活の安全性及び利便性の向上を図り、歩いて暮らせる環境整備を推進(日南市) (55)
- 都井岬や幸島、恋ヶ浦のサーフィン、高松海水浴場などの観光資源の保護、整備、充実、ネットワーク化を図る(串間市) (57)

県レベルの関連計画と重複する内容については省略している。
() 番号は p.50-51 の各種計画の番号を転記したものです。

3)海岸に関する住民意見等

地域住民の意見を反映させるため、海岸保全基本計画策定時には平成 13 年に地域住民アンケート調査及びホームページアンケート調査を実施し、海岸保全基本計画変更時には平成 27 年にパブリック・コメントによる意見募集を実施した。

.地域住民アンケート調査結果

平成 13 年 12 月において、地域住民に対するアンケート調査を行った。その結果を以下に示す。なお、アンケート結果は、県北部、県中部、県南部ごとに集計した。

a. 海岸に対する不満

海岸に来訪して、不満に思ったことについての回答として、どの地域でも最も多い項目は、“ゴミの散乱”であるが、その他の項目では地域による違いが見受けられる。県北部では、トイレやシャワー、駐車場、食事・休憩施設の不足といった利用面に関する不満が上位を占めており、県中部では、砂浜幅員に対する不満が第 2 位に位置し、次いで施設整備に対する不満が続いている。県南部では、県北部とほぼ同様の傾向となっている。

b. 海岸環境の中で特に守っていくべきもの

全ての地域で“海の水(水質)”が最も多いが、これ以外の項目では地域による違いが見られる。県北部及び南部においては、“魚や貝、海草等海の生き物”が第 2 位、“砂浜”が第 3 位となっているが、県中部においては、“砂浜”が第 2 位となっている。

c. 今後の重点課題

今後の整備の方向性として“安全”“環境”“利用”に区分し、それぞれ 5 段階評価をして貰った。これを地域別に平均値で集計した結果、各地域とも、安全及び環境がほぼ同程度(3.8~4.1)となり、利用は 3.2~3.4 となっている。

d. 自由意見の傾向

自由意見を幾つかの категория に分類し集計した結果、県北部では、公園・駐車場等整備に対するものが最も多く、県中部及び南部では管理運営が最も多い。また、“環境”に関する意見が最も多く、次いで“利用”に関する意見となっており、“安全”に関する意見は比較的少ないものとなっている。

表 - 1.1.10 地域アンケートにおける自由意見の分類

	安全(防護)		環境			利用		全般的	その他	
	侵食	護岸	松林	管理運営	水質	公園等	港整備		河川	その他
県北部	22	17	24	17	12	54	29	62	10	94
県中部	40	11	13	67	6	35	7	20	12	44
県南部	14	15	7	30	6	24	3	26	4	18
計	76	43	44	114	24	113	39	108	26	156
	119		182			152		108	182	

.ホームページアンケート調査結果

宮崎県のホームページ上において、海岸保全基本計画に関するアンケート調査を行った。

約 140 名の回答があったが、そのうち 25 名は県外（福岡県、東京都、神奈川県等）の回答者であった。

a. 宮崎県の海岸のイメージ及び来訪の目的

“自然が残されたところ”という認識が最も多く、“海辺の風景を楽しむ”ことを目的として来訪している人が最も多い。なお、将来において海辺で行いたい活動も“海辺の風景を楽しむ”が最も多い。

b. 海岸整備への要望

生物等生態系への配慮をあげている回答者が最も多く、眺望や景観といった利用面の項目は第 2 位であった。

c. 対策

安全面における対策としては、行政・住民との連携によるソフト面の強化をあげている人が多く、ハード面における整備の強化を選択した人は少ない。

環境面における対策としては、地域住民やボランティアの協力による美化活動が第 1 位となり、利用者等への啓発活動を選択した人は第 2 位となっている。

利用面における対策としては、利用のルールづくりや啓蒙活動など制約を伴うものが最も多く、アクセス向上やバリアフリー対策など、利用環境を向上させるものが第 2 位となっている。

d. 今後の重点課題

地域アンケートと同様に、今後の重点課題として、安全・環境・利用の 3 側面において 5 段階評価をして貰ったが、平均では環境が特化して高い重点度となっている一方、安全面が利用面と同程度の重要度となっている。

パブリック・コメントによる意見

平成27年1月9日から2月10日にかけて、パブリック・コメントによる意見募集を実施した。15名から30件の意見が寄せられ、そのうち県外者からの意見もあった。

これらの意見を分類した結果は、以下のとおりであり、「施設計画に関する意見」のなかでも、特に「景観・利用・環境へ配慮すべき」という意見が多かった。

a. 意見の分類

分類No.	項目	件数
A	海岸保全基本計画への提言	2 件
	防護目的の明確化、海岸の未来像	1 件
	観光資源を活かした津波防災	1 件
B	施設計画に関する意見	24 件
	堤防以外の計画を考えるべき	3 件
	景観・環境・利用に配慮すべき	9 件
	合意形成方法について	2 件
	構造物による海岸侵食の誘発	1 件
	国内外の先進事例を参考にすべき	1 件
	個別海岸に対する意見	8 件
C	海岸林に関する意見	2 件
	海岸松林の見直し、海岸保全施設としての位置付け	2 件
D	本文修正に関する意見	2 件
	海岸環境特性、挿絵	2 件
	合計	30 件

b. 意見の要旨

A 海岸保全基本計画への提言(2件)

・本計画の防護目的が「財産保護」なのか「人命保護」なのかという防護目的を問う意見や、県民の将来にとって望ましい日向灘沿岸の未来像の明記や、他県には類の無い宮崎県の貴重な自然観光資源や高度情報ネットワークを十分に生かした次世代型の津波防災を望む意見がみられた。

B 施設計画に関する意見(24件)

・宮崎県の豊かな海岸景観や環境と調和し、サーフィンなどの観光資源にも配慮した施設計画を望む意見や、海岸保全施設の整備などのハード対策よりも、津波避難施設の整備などのソフト対策の充実を望む意見がみられた。

C 海岸林に関する意見(2件)

・地球温暖化や維持管理経費を考慮し、全ての海岸林を照葉樹林へ移行させるべきという意見や、海岸林を海岸保全施設と位置づけ、コストの削減を望む意見がみられた。

D 本文修正に関する意見(2件)

・天然記念物や希少種の記載に関して、海岸生物種の追加記載や、海岸の安全性に対し誤解を与え兼ねない挿絵の修正を求める意見がみられた。

(3) 海岸保全の方向性(目標)

国が定めた「海岸保全基本方針」を基に、日向灘沿岸の特性を踏まえた課題を解決するため、日向灘沿岸における海岸保全の長期的な方向性を示す。

日向灘沿岸は、大分県境から鹿児島県境までの約400kmの日向灘に面した海岸線であり、地形の特徴から大きく県北部、県中部、県南部の3つに分けることができる。県北部と県南部は所々にポケットビーチのある複雑な形をしたリアス式海岸であり、県中部は砂浜を中心とした約70kmのほぼ直線上の海岸である。

日向灘沿岸は、直接太平洋に面し、地震や台風等の厳しい自然条件にさらされており、津波、高波、波浪等による災害や海岸侵食等に対して脆弱性を有している。このため、海岸の背後に集中している人命や財産を災害から守るとともに、国土の保全を図るため、海岸整備を進めてきた。

一方、本県は、「太陽と緑の国」と呼ばれるように、温暖な気候のもと、紺碧な空、青い海、緑豊かな山々や、これに端を発して太平洋にそそぐ多くの清らかな河川など、美しく豊かな自然環境に恵まれている。

そのような自然環境の中で、日向灘沿岸には、我が国における絶滅危惧種のアカウミガメの産卵地が多数存在し、また、カンムリウミスズメやグンバイヒルガオなど希少種を含む多様な野生生物の生息・生育の場ともなっている。

また、鬼のせんたく板の中に浮かぶ青島、南国情緒を醸し出すフェニックスを通して果てしなく広がる日向灘を一望できる堀切峠、野生馬の生息する都井岬、日本最大級の柱状節理の断崖である馬ヶ背、白砂青松のお倉ヶ浜といった優れた海岸景観がある。また、県中部には、延々と続く手つかずのままの砂浜とそれに沿った植物群落が残されており、日に向かう国(日向の国)の雄大で美しい海岸風景を呈している。そして、これらの景観は、まさに本県の重要な観光資源であることは言うまでもない。

さらに、本県は「神話と伝説のふるさと」と称されるように、数々の史跡や天孫降臨神話の伝承などが県内各地に数多くある。特に、海岸部には、山幸彦と豊玉姫、あるいは神武天皇のお舟出のような神話や伝説が残されており、海岸とともに生きる人々や海岸に集い来る人々の心に海への畏敬とロマンを呼び起こし、「心のふるさと」として継承してきた。

このような多様で豊かな日向灘沿岸は、住民の生活や漁業・物流の場として、また、レジャーやスポーツ、あるいは様々な動植物に触れ合う場として、さらに、多くの人々が潤いや癒しを求めて集い来る交流空間としても貴重であり、地域振興の資源の一つとして位置付けられるべき地域の財産である。

このような中で、日向灘沿岸は、防災面では海岸保全施設の整備水準は未だ十分でないところもあり、侵食の進行している海岸や内湾・入江など一部の地域では高潮・越波の被害が発生している。また、県中部を中心として様々な要因により砂浜の侵食が進行しており、アカウミガメ等の希少な生物への影響が懸念されているところである。また、安全・安心な地域社会の実現のため、津波、高潮への対応について万全を期す必要がある。南海トラフを震源とする地震は、今後30年以内に70%程度といった高い確率で発生することが予測されており、特に、レベル1津波対策の推進は喫緊の課題となっている。加えて、希少生物の生息・生育する海岸環境を保全するための海岸利用のルールづくりなど、様々な課題が出てきている。

これらの現状の特性や課題を踏まえ、目指すべき日向灘沿岸における海岸保全の方向性は右のとおりとする。

〈海岸保全の方向性〉

人にとっても、自然にとっても、安全・安心・快適・豊かな環境が守られ、
人と人、人と自然、自然と自然が集い来て『驚き・潤い・癒し・学び・喜び』を共有できる、
くつろぎ・活力の交流空間としての日向の海岸づくり



災害に強い安全・安心の地域社会を実現するため、環境や利用に配慮しながら、施設の計画的な整備を一層進めます。特に、防災上の機能と併せて、人と海とのふれあいやアカウミガメなど多様な生物の生息・生育・産卵の場である砂浜については、その保全と回復を主体とした整備をより一層推進します。

日向灘沿岸の優れた海岸景観については、今後とも保全と創出に努めるとともに、希少又は多様な動植物の生息・生育の場である砂浜、岩礁、河口域、干潟などの自然環境を良好な状態で守っていきます。

子供から高齢者まで多くの人が『驚き・潤い・癒し・学び・喜び』などを求めて集い、そして、その交流により地域も豊かさを実感できるくつろぎ・活力の交流空間づくりを一層進めるとともに、多様な海岸利用の増進を図ります。

第2節 海岸の防護に関する事項

(1) 防護の目標

防護すべき地域

日向灘沿岸海岸基本計画における防護すべき地域とは、以下に示す侵食、高潮・越波および津波などからの防護を行う区域(海岸)の背後地域において、家屋や土地・資産に対して被害の発生が予想される範囲とする。

1) 侵食からの防護

砂浜の侵食により、国土保全、環境保全の維持が困難となる海岸については、漂砂の連続性を考慮した施設配置、施策などを行う区域とする。

2) 高潮・越波からの防護

背後地に対して、既存の海岸保全施設が高潮・越波に対して十分な機能性を有していない区域については、防護水準を満足するだけの施設の改良や新設を行う区域とする。

3) 津波からの防護

南海トラフを震源とする地震で発生する津波による被害が想定される地域については、背後地の重要度、地域特性などを配慮して施設整備や施策などを行う区域とする。

4) 施設の老朽化対策

現況の施設が、老朽化により機能性、安全性の観点から問題が生じている場合には、施設の補修または改良を行い、機能性、安全性の回復・維持を図る区域とする。

防護水準

高潮および越波に対する防護については、設計高潮位(過去の台風などによる最高潮位)に、30年に1回来襲すると予測される波浪(30年確率波)の影響を加えた高さを防護水準の目標とする。

侵食に対する防護については、現況汀線の保全・維持が基本的な目標であるが、侵食が顕著な場合や砂浜による消波機能を考慮した面的防護を必要とする場合、あるいはアカウミガメなどの生物環境への配慮が必要な場合については、それらの防護又は環境への配慮にあたって必要となる海浜幅・海浜高までの回復を図ることを目標とする。

また、津波に対する防護については、数十年から百数十年に1回程度の比較的発生頻度の高い津波(レベル1津波)を対象とし、平成25年12月に本県が設定した「設計津波(レベル1津波)の水位」を防護水準とする。

日向灘沿岸における防護水準は、表-1.2.1のとおりとする。

「設計津波(レベル1津波)の水位」・・・海岸堤防等の計画・設計の目安となる津波の水位。本県においては、過去に発生した地震や想定地震による5つの津波モデル(安政地震及び昭和地震の再現モデル、東南海・南海地震(2003年)、日向灘北部地震及び日向灘南部地震の想定モデル)を用いて設計津波(レベル1津波)の水位を設定した。

表 - 1.2.1 地域海岸別の防護水準一覧

区分	防護水準							侵食
	地域海岸 ¹	津波		細分区間を設定する地区	設計高潮位 ² (T.P.m)	高潮		
		設計津波(L1津波)の水位 (T.P.m)	細分区間			波浪(30年確率波)	Ho ³ (波高) (m)	
	主要区間							
県北部 (県境～高鍋港湾区域(北端))	北浦～古江～南浦	5.4	2.4、4.0	浦尻湾、島野浦島	1.78	9.1～12.5	10.5～14.0	現況汀線 又は防災 および 環境配慮 に必要な 海浜幅・海浜高
	方財～長浜	4.7	5.1	方財海岸				
	新浜～土々呂	5.6	3.3、6.6	妙見湾、鯛名町				
	門川～細島	4.1	5.6、5.2	門川漁港・細島港 (工業港地区)、 細島港(商業港地区)				
	伊勢ヶ浜～ 小倉ヶ浜～平岩	4.7	5.4、5.2、 4.9	伊勢ヶ浜、小倉ヶ浜、 金ヶ浜(坂元海岸)				
	美々津～ 都農～川南	4.6	-	-				
県中部 (高鍋港湾区域 (北端)～堀切岬)	高鍋～新富～住吉	3.8	-	-	2.42	9.4～13.9	10.8～15.0	
	宮崎港～宮崎空港	5.0	-	-				
	赤江～加江田	5.4	-	-				
	青島～内海～富士	5.8	7.8	青島漁港				
県南部 (堀切岬～都井岬)	宮浦～ 風田～梅ヶ浜	5.4	-	-	1.96	8.9～13.6	10.9～14.3	
	油津港～ 外浦～宮之浦	4.0	3.1、4.5	大島、宮之浦漁港				
県南部 (都井岬～県境)	都井～本城～福島	3.6	-	-		8.7～13.4	10.2～14.3	

1「地域海岸」・・・平成23年7月8日付けで国より通知された「設計津波の水位の設定方法等について」に基づき、日向灘沿岸を湾の形状や山付け等の自然条件やシミュレーションの津波高さ等から、同一の津波外力を設定しようと判断される一連の海岸線に分割したもの

2「設計高潮位」・・・高潮に備えた海岸保全施設の設計を行うため、潮位の上限值として定められたもの(既往最高潮位等)

3「Ho(波高)」・・・沖合いの波の高さであり、高潮や波浪による波の打ち上げ高などの算出に用いるもので、個々の海岸における高潮・越波高とは異なる

4「To(周期)」・・・沖合いの波の周期であり、周期が長いほど波のうねりが強い。高潮や波浪による波の打ち上げ高などの算出に用いる

(2) 施策の内容

次に掲げる特性及び課題を踏まえ、前頁で定めた防護の目標を達成するための施策の内容については、次のとおりである。

防護面の特性	防護面の課題	防護面の施策
<p>(海岸防護の現状)</p> <p>海岸保全施設の整備水準は未だ十分ではないところもあり、侵食の進行している海岸や内湾・入江など一部の地域では高潮・越波の被害が発生している。</p> <p>特に、県中部を中心として砂浜海岸の侵食が見受けられ、国土保全だけでなくアカウミガメなどの繁殖環境への影響が懸念されている。加えて、侵食対策を求める住民の声が多い。</p> <p>南海トラフを震源とするマグニチュード 8～9 クラスの地震が、今後 30 年以内に 70% 程度といった高い確率で発生することが予測されており、津波による大きな被害が懸念されている。</p>	<p>(施設の計画的な整備)</p> <p>今後とも防護の必要な海岸においては、環境や利用に配慮しながら、施設の計画的な整備を一層進める必要がある。</p> <p>(海岸侵食への対応)</p> <p>日向灘沿岸の砂浜は、国土保全や海岸保全施設の防護などの防災上の機能と併せて、白砂青松等の美しい海岸景観の構成要素となるとともに、人と海とのふれあいや海水の浄化の場としても重要な役割を果たしており、多様な生物の生息・生育の場であり、さらに、アカウミガメの上陸・産卵の場となっている。そのため、砂浜について、その保全と回復を主体とした整備をより一層推進する必要がある。</p> <p>(津波への対応)</p> <p>発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらすレベル 1 津波に対しては、整備優先度の高い海岸から早急に対応する必要がある。</p>	<p>(施設の計画的な整備)</p> <p>今後とも防護の必要な海岸においては、環境や利用に配慮しながら、施設の計画的な整備を一層進める。整備を進めるにあたっては、堤防や消波工のみで海岸線を防護する線の防護方式から、沖合施設や砂浜等も組み合わせることにより、防護のみならず環境や利用の面からも優れた面的防護方式への転換をより一層推進する。</p> <p>また、津波や高潮による甚大かつ広域的な被害を防ぐため、堤防、護岸、高潮・津波防波堤等の整備を進めるとともに、必要に応じ、それらの施設を複合的かつ効果的に組み合わせた対策を推進する。</p> <p>既存の施設については、施設機能の適切な保持を図るため、維持補修を行うことにより耐久性の向上を図るとともに、老朽化等により再整備が必要な施設については、環境や利用に配慮しながら順次更新していく。</p> <p>(海岸侵食への対応)</p> <p>侵食対策としては、施設の整備と併せ、広域的な漂砂の動きを考慮して、一連の海岸において堆積箇所から侵食箇所へ砂を補給する等構造物によらない対策も含めて土砂の適切な管理を推進する。</p> <p>また、海岸侵食は、土砂の供給と流出のバランスが崩れることによって発生する。この問題に抜本的に対応していくため、海岸地形のモニタリングを行いつつ、海岸部において、沿岸漂砂による土砂の収支が適切となるよう構造物の工夫や新工法などの新たな技術に関する研究等を含む取組を進めるとともに、海岸部への適切な土砂供給が図られるよう河川流域における総合的な土砂管理対策とも連携する等、関係機関との連携の下に広域的・総合的な対策を推進する。</p> <p>(津波への対応)</p> <p>レベル 1 津波対策としては、人命・住民財産の保護、地域経済の確保の観点から、海岸保全施設の整備を進めていく。</p> <p>レベル 1 津波の設計津波水位を超え、海岸堤防等の天端を越流する津波に対しては、浸水までの時間を遅らせ、避難の為にリードタイム¹を長くすることや、背後地の被害の軽減を図ることができるよう、施設の効果が粘り強く発揮できるような構造上の工夫²に努める。</p> <p>最大クラスの津波に対しては、関係機関と連携し、ハザードマップの整備や避難路の確保など、避難を中心とするソフト対策を推進する。</p> <p>1 「リードタイム」…警報・注意報を発表してから基準を超える現象が発生するまでの時間 2 「粘り強い構造」…天端の保護や、法面の被覆、裏法尻の洗掘防止対策等により、粘り強く施設の効果を発揮できる「減災」を目指した構造</p>
<p>(その他の防護面の懸念)</p> <p>県では平成 25 年 2 月に最大クラスの津波浸水想定を設定したところであり、津波に対する減災対策が求められている。</p> <p>津波災害等の発生時における、水門等の現場操作員の安全確保が求められている。</p> <p>日向灘沿岸の海岸保全施設は、昭和 40～50 年代に整備された施設が多く、今後急速な老朽化の進行が懸念される。</p>	<p>(防災体制の確立)</p> <p>津波、高潮対策については、施設の整備によるハード面の対策だけでなく、適切な避難のための迅速な情報伝達などソフト面の対策も併せて講ずる必要がある。</p> <p>津波災害等の発生時における、水門等の操作体制を確立する必要がある。</p> <p>(海岸保全施設の適切な維持管理)</p> <p>高度成長期等に集中的に整備された海岸保全施設の老朽化への適切な維持・修繕を推進していく必要がある。</p>	<p>(防災体制の確立)</p> <p>関係機関と連携して、防災体制の整備や避難地の確保とともに、防災情報の提供、災害時の対応方法の周知など、地域住民の防災意識の向上及び防災知識の普及を図る。特に、津波や高潮による被災が予想される地域にあっては、災害弱者である高齢者等の避難誘導を円滑に行うため、自主防災組織や地域住民に災害弱者の避難誘導に対する協力をあらかじめ得ておくなどの対策を講じるものとする。</p> <p>さらに、津波については、地震の発生から襲来までの時間が極めて短いことを十分考慮し、関係機関と連携して、円滑な避難のための迅速な情報伝達が可能となる防災行政無線システム等の構築や体制づくりとともに、津波発生時の適切な避難経路や避難地の確保を図るための防災マップの作成、避難タワー等の整備、津波避難ビルの指定などによる避難体制の構築に努める。また、地域住民のみならず観光客等、地理・地形に不案内な海岸利用者の避難も考慮し、浸水被害等の災害危険度や避難地への安全移動経路をあらかじめ周知する、避難誘導標識や海拔表示などのサイン施設の整備を推進する。</p> <p>津波等の災害時において、水門、陸閘等の操作に従事する者の安全を確保しつつ、適切に操作するための操作方法、訓練等に関する操作規則等を策定する。また、自動閉鎖化・無動力化などの施設改良に取り組んでいく。</p> <p>(海岸保全施設の適切な維持管理)</p> <p>施設の損傷や劣化その他変状について点検を行い、長寿命化を図るなど予防保全型の効果的な維持・修繕に努め、施設の機能を確保する。また、地域の実情に応じた海岸の維持管理の充実を図るため、海岸の管理に協力する法人又は団体(NPO 等)を海岸協力団体として指定することについて検討する。</p>

第3節 海岸環境の整備及び保全に関する事項

海岸保全の方向性及び次に掲げる特性や課題を踏まえ、海岸環境を整備し、及び保全するために実施しようとする施策の内容は、次のとおりである。

環境面の特性	環境面の課題	環境面の施策
<p>(優れた景観)</p> <p>全国に先駆けた「沿道修景美化条例」(昭和44年)や「環境基本条例」(平成8年)「景観形成基本方針」(平成19年)などに基づき郷土の美化や景観の保全を推進してきており、日南海岸などの多くの優れた海岸景観があり、重要な観光資源となっている。</p>	<p>(優れた景観の保全、創出等)</p> <p>日向灘沿岸の景勝地などの多くは、自然公園などの優れた景観であり、天然記念物などの学術上貴重な自然である。また、県民に心の豊かさをもたらす財産であるとともに、大きな観光資源であるため、今後とも保全と創出に努める必要がある。</p> <p>さらに、この優れた海岸景観が眺望できるポイントの整備やそれらへのアクセスの確保とともに、その内容が十分周知されるよう県民や国内外の人々に情報発信することが必要である。また、施設の整備にあたっては、優れた海岸景観が損なわれることのないよう、配慮する必要がある。</p>	<p>(優れた景観の保全、創出等)</p> <p>日向灘沿岸の優れた海岸景観については、今後とも保全と創出に努める。また、関係機関と連携して、自然環境の保全に留意しつつ、優れた海岸景観が眺望できるポイントの整備やそれらへのアクセスの確保とともに、インターネット等を活用して県民や国内外の人々に対して情報の発信に努める。</p> <p>海岸保全施設の整備にあたっては、優れた海岸景観が損なわれないよう配慮するものとし、線の防護方式から沖合施設や砂浜等も組み合わせる面的防護方式への転換をより一層推進するとともに、単体の景観・デザインのみならず、保全対象海岸の地形や環境との一体感や地域の個性を尊重した整備を図る。さらに、施設の整備配置や施設高等の設定に関しては、整備による海岸景観、環境のほか利用等への影響を含め総合的に考慮し、住民等と合意形成を図りながら検討を行う。</p>
<p>(多様な生物の生息・生育の場)</p> <p>本県の豊かな環境の中で日向灘沿岸全域に希少な又は多様な動植物が生息・生育している。</p>	<p>(生物の生息・生育環境の保全)</p> <p>日向灘沿岸全域に生息・生育する希少又は多様な動植物にとって良好な環境を守っていく必要がある。特に、天然記念物などの学術上貴重な自然、生物の重要な生息・生育地などの優れた自然を有する海岸については、その保全に十分配慮する必要がある。</p> <p>さらに、保全施設の整備にあたっては、海岸を生息・生育や産卵の場とする生物がその生息環境などを脅かされることのないよう、自然環境の保全に配慮する必要がある。</p>	<p>(アカウミガメなどの生物の生息・生育・繁殖環境の保全)</p> <p>希少又は多様な動植物の生息・生育の場である砂浜、岩礁、河口域、藻場、干潟などの自然環境を良好な状態で守っていく。特に、天然記念物などの学術上貴重な自然、生物の重要な生息・生育地などの優れた自然を有する海岸については、その生息・生育等環境に影響を与えないよう保全に十分配慮する。</p> <p>さらに、保全施設の整備にあたっては、海岸を生息・生育や産卵の場とする生物がその生息環境などを脅かされることのないよう、生息・生育・繁殖環境への影響を考慮した施設の整備位置の検討を行うなど、自然環境の保全に配慮する。離岸堤や潜堤、人工リーフ等は、多様な生物の生息・生育の場となり得ることから、自然環境に配慮した整備を進める。特に、アカウミガメの上陸・産卵への影響を最小限にする工法を様々な角度から検討する。</p> <p>また、津波来襲後の生態系・生息域の回復については、自然治癒力に依存するだけでなく、積極的な自然環境基盤の保全対策に努める。</p>
<p>(海岸侵食によるアカウミガメへの影響)</p> <p>世界的にも大変貴重なアカウミガメは、日向灘沿岸の砂浜で上陸・産卵しているが、砂浜の侵食による影響が懸念されている。</p>	<p>(アカウミガメの上陸・産卵に配慮した施設整備の在り方の検討)</p> <p>アカウミガメは世界的にも大変貴重な生物であるので、アカウミガメが上陸・産卵する砂浜で侵食の進んでいる区域については、その保全と回復を主体とした整備を一層推進する必要がある。</p> <p>また、砂浜の保全や回復のための海岸保全施設の整備にあたっては、アカウミガメの上陸・産卵に配慮した整備の在り方を十分検討する必要がある。</p>	<p>(希少な生物の保全のための車の乗り入れ規制等の検討)</p> <p>アカウミガメなどの希少な生物の保全のために特に管理を行う必要が高い区域については、地域の状況や海岸の特性を踏まえ、地元自治体や地域住民等との調整を図りながら、砂浜への車の乗り入れ規制を検討する。</p> <p>また、海岸環境に対する情報の収集・整理と分析を行い、その結果の提供・公開を通じて関係者間の情報の共有を進めることにより、保全すべき海岸環境について関係者が共通の認識を有するよう努める。</p> <p>さらに、利用者に対しては、希少な生物への配慮などマナー向上のための啓発を行う。</p>
<p>(行為の制限への要請)</p> <p>一部の地域で、アカウミガメの上陸・産卵の保護のため、砂浜への車の乗り入れ規制等を求める要請がある。</p>	<p>(希少な生物の保全のための車の乗り入れ規制等の検討)</p> <p>アカウミガメなどの希少な生物の保全については、ハード対策だけでなくソフト対策も含めて検討する必要がある。そのため、必要に応じて、砂浜への車の乗り入れ規制や利用マナーの啓発など、海岸の利用における人為的な影響の抑制方法等の検討を行う必要がある。</p>	<p>(希少な生物の保全のための車の乗り入れ規制等の検討)</p> <p>アカウミガメなどの希少な生物の保全のために特に管理を行う必要が高い区域については、地域の状況や海岸の特性を踏まえ、地元自治体や地域住民等との調整を図りながら、砂浜への車の乗り入れ規制を検討する。</p> <p>また、海岸環境に対する情報の収集・整理と分析を行い、その結果の提供・公開を通じて関係者間の情報の共有を進めることにより、保全すべき海岸環境について関係者が共通の認識を有するよう努める。</p> <p>さらに、利用者に対しては、希少な生物への配慮などマナー向上のための啓発を行う。</p>
<p>(海岸環境の保全への要請)</p> <p>海岸環境の保全のため、ゴミ対策や利用者のマナー向上を求める声が多い。また、海岸に漂着した大規模な流木などについての対策を求める声が多い。</p>	<p>(海岸漂着物対策と地域連携による海岸の美化と利用者のマナーの向上)</p> <p>海岸におけるゴミ対策や清掃等海岸の美化については、地域住民やボランティア等の協力を得ながら進めるとともに、参加しやすい仕組みづくりに努める必要がある。</p> <p>また、無秩序な利用やゴミの投棄等により海岸環境の悪化が進まないよう、モラルの向上を図るための対策を講じる必要がある。</p> <p>さらに、洪水等により大規模な流木などが海岸に漂着した場合は海岸の保全に支障が生じることから、適切に対応する必要がある。特に「流木・灌木等」の年間漂着量(推計)は、全国平均の5.8倍となっており、本県においては流木処理対策が課題である。</p>	<p>(海岸漂着物対策の推進と地域連携による海岸の美化と利用者のマナーの向上)</p> <p>「宮崎県海岸漂着物対策推進地域計画(平成23年3月)」に基づき、管理する海岸が清潔に保たれるよう、景観、生態系の自然条件や海岸の利用状況並びに経済活動等の社会的条件に応じて、海岸漂着物の処理のために必要な対策を講じる。</p> <p>なお、海岸におけるゴミ対策や清掃等海岸の美化については、地域住民やボランティア等の協力を得ながら進めるとともに、現在進めている海岸ボランティア支援事業の実施や「川や海の応援団」(アダプト制度)の導入など参加しやすい仕組みづくりに努める。</p> <p>また、海岸愛護の思想の普及やモラルの向上を図るため、普及啓発の推進や環境保全活動の促進とともに、アカウミガメなどの希少な生物の観察などの自然体験・学習活動やブルーーツリズムへの体験参加などを通じて多様な環境学習を推進する。</p> <p>さらに、学校と連携を図り、総合的な学習等での海岸環境の活用を促進する。</p>

第4節 海岸における公衆の適正な利用に関する事項

海岸保全の方向性及び次に掲げる特性や課題を踏まえ、海岸における公衆の適正な利用を促進するために実施しようとする施策の内容は、次のとおりである。

利用面の特性	利用面の課題	利用面の施策
<p>(多様な海岸利用)</p> <p>山幸彦や豊玉姫の神話が残る青島神社や鶴戸神宮、神武天皇のお舟出の地として有名な美々津港海岸、また、青島神社裸詣りといった祭りなど、日向灘沿岸には多くの神話や伝説、歴史・文化が息づいており、観光や地域振興の貴重な資源ともなっている。</p> <p>海水浴の利用に加え、温暖な気候などによりサーフィン、ダイビング、釣りなどの海洋性レクリエーションが盛んである。</p>	<p>(多様な利用の増進のための施設の整備等)</p> <p>日向灘沿岸は、祭りや行事の場として利用され、地域文化の形成や継承に重要な役割を果たしてきている。</p> <p>また、海水浴等の利用に加え、温暖な気候などによりサーフィン、ダイビング、釣りなどの海洋性レクリエーションが盛んであり、日常的な散歩やジョギングの場でもある。</p> <p>このため、今後も、このような多様な利用に配慮し、施設の整備等を推進するとともに、景観や利便性を著しく損なう施設の汚損、放置船等に適切に対処する必要がある。また、施設の整備にあたっては、多様な利用が阻害されることのないよう、配慮する必要がある。</p>	<p>(多様な利用の増進のための施設の整備等)</p> <p>今後も、日向灘沿岸において多様な海岸の利用に配慮し、関係機関と連携を図りながら、施設の整備等に努めるとともに、景観や利便性を著しく損なう施設の汚損、放置船等に適切に対処する。特に、施設の整備位置や施設高等の設定に関しては、住民等と合意形成を図りながら、整備による海岸利用への影響のほか、景観、環境を総合的に考慮し検討を行う。</p>
<p>(アクセスや便利施設の不備)</p> <p>アクセスや便利施設の不備などがあるため、バリアフリー化等も考慮した整備を求める住民の声が多い。</p>	<p>(海辺へのアクセスの確保や便利施設の整備)</p> <p>海辺に近づけない海岸等においては、必要に応じ、海とのふれあいの場を確保するため、自然環境の保全に留意しつつ、公衆による海辺へのアクセスの確保に努める必要がある。また、海岸保全施設の整備にあたっては、利用者の利便性や地域社会の生活環境の向上に寄与するため、これに配慮した施設の工夫に努める必要がある。</p> <p>その際、高齢者や障害者等が日常生活の中で海辺に近づき、身近に自然と触れ合えるようにするため、施設のバリアフリー化に努める必要がある。</p>	<p>(海辺へのアクセスの確保や便利施設の整備)</p> <p>海辺に近づけない海岸等においては、必要に応じ、海とのふれあいの場を確保するため、自然環境の保全に留意しつつ、関係機関との連携によって公衆による海辺へのアクセスの確保に努める。海岸保全施設の整備にあたっては、利用者の利便性や地域社会の生活環境の向上に寄与するため、これに配慮した施設の工夫に努める。特に、堤防等によって、海辺へのアクセスが分断されることのないよう、必要に応じ階段の設置等施設の構造への配慮を行うとともに、さらに、階段護岸や緩傾斜堤防等の整備を推進する。</p> <p>その際、高齢者や障害者等が日常生活の中で海辺に近づき、身近に自然と触れ合えるようにするため、施設のバリアフリー化に努める。また、海岸の生物の生息・生育や、人々の適正な利用の確保の観点から、既存の施設を環境や利用に配慮した施設に作り変えていくことにも十分配慮する。</p>
<p>(海岸を巡る様々な施策)</p> <p>四季を通じて様々なスポーツを楽しむことができる本県の温暖な気候を生かして、現在、スポーツ施設等の整備や各種スポーツ大会・キャンプ等の誘致を行い、「スポーツランドみやざきづくり」を進めている。その他、県・関係市町において様々な施策を進めている。</p>	<p>(様々な施策との一層の連携)</p> <p>海岸は、海と陸が接する独特な空間であることから、様々な利用の可能性を秘めている。観光やレジャー・スポーツの振興、自然体験・学習活動の推進、健康の増進及び自然との共生の促進等のため、本県で展開中の「スポーツランドみやざきづくり」をはじめとした様々な施策との一層の連携を図る必要がある。</p>	<p>(様々な施策との一層の連携)</p> <p>「スポーツランドみやざきづくり」をはじめとした様々な施策との一層の連携を図るため、情報や意見の交換を通じて関係者間の情報共有を進める。</p>
<p>(海岸利用のルールづくりへの要請)</p> <p>本県では既に平成4年に遊泳者とプレジャーボートとの間の事故の防止などを図ることを目的として、「宮崎県遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」を制定し、平成19年3月には「宮崎県プレジャーボート対策基本方針」を策定しているが、無秩序な利用を防ぐための地域の実情に応じた海岸利用のルールづくりを求める声は多い。</p>	<p>(海岸利用のルールづくりなど)</p> <p>海岸の適正な利用を促進していくためには、海岸は海への入口であり、時には人命を損なう危険な場所でもあるという認識に立ち、「宮崎県遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」及び「宮崎県プレジャーボート対策基本方針」による規制を踏まえた海岸利用のルールづくりを推進するとともに、安全で適正な利用に必要な情報を適宜提供していく必要がある。</p>	<p>(海岸利用のルールづくりなど)</p> <p>関係機関との連携により「宮崎県遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」及び「宮崎県プレジャーボート対策基本方針」に基づき、港湾・漁港においては放置等禁止区域、許可係留区域等を設定し、許可制の導入を推進している。</p> <p>また、条例の規制していない事項などについては、関係市町、地域住民、利用者などが連携した地域の実情に応じた海岸利用のルールづくりへの支援に努める。</p>

第5節 ユニット区分とユニットごとの基本方針

(1) ユニット区分の必要性

日向灘沿岸は、それぞれ様々な特性を持った多数の海岸から構成されている。したがって、日向灘沿岸全体の視点のみでは、全ての海岸の特性や課題などを抽出することは困難である。一方で、海岸保全計画の策定にあたっては、広域的・総合的な視点からの施策を立案する必要があるため、個々の海岸を対象とするのではなく、防護・環境・利用の側面において類似する多くの海岸をひとまとめにして、それを一つの区域(ユニット)としてとらえることが重要である。

以上から、特性の類似した海岸をひとまとめにして、日向灘沿岸をできるだけ広域的に区分し、それぞれの区分ごとに課題や基本方針について検討することとする。

(2) ユニット区分のために考慮すべき事項

ユニット区分のために各海岸がもつ特性の中で考慮すべき事項は、表 - 1.5.1 に示すとおり、個々のユニットにおいて海岸保全の基本方針を検討する際に重要となる防護・環境・利用の3側面に関する事項とした。

また、海岸所管区分、市町区分、海岸性状、海岸地形および漂砂系については、ユニット区分にあたっての参考事項とした。

海岸所管区分：“建設海岸”“港湾海岸”“漁港海岸”“農林海岸”の4区分

市町区分：10市町の行政区分

海岸性状：“港等の人工構造物”“崖・岩礁等の海岸”“砂浜の海岸”の3区分

海岸地形：“入り組んだ地形”“湾”“直線的な地形”“複雑な地形”の4区分

漂砂系：日向灘沿岸を広域的に捉えた際の漂砂系区分

なお、ユニット区分は、本来、3つの側面に関する全ての項目によって総合的に判断すべきものであるため、同表以外の事項についても重要と判断されたものは、ユニット区分のための視点とすることとした。

表 - 1.5.1 ユニット区分のために考慮すべき項目

項目		内容
防護	砂浜の 侵食・堆積	砂浜侵食が発生している海岸か否か、堆積傾向にある海岸か否か
	高潮・越波	高潮位・高波浪に対して既存施設が十分に機能しているか、否か
	津波	設計津波の水位（レベル1津波）に対して浸水被害が発生する海岸か否か
	住民要請	地域住民アンケートの自由意見やパブリックコメントにおいて、安全に関わる要請が寄せられているか、否か
	護岸	海岸において護岸整備がされているか、否か
	離岸堤・潜堤	海岸において離岸堤・潜堤整備がされているか、否か
	突堤・その他	海岸に離岸堤・潜堤整備がされているか、否か
環境	希少な 動植物	日向灘沿岸で確認された希少な動植物の有無
	ウミガメ 上陸・産卵	アカウミガメの上陸・産卵の実績の有無
	天然記念物 等	海岸部に位置する国指定及び県指定天然記念物（特別天然記念物含む）、国指定及び県指定名勝、県指定史跡、国登録文化財、県指定有形文化財、市町指定文化財の有無
	保安林	沿岸部に位置する保安林の有無
	国定公園	海岸に接する国定公園及び特別保護区等の有無
	景勝地	海岸部に位置する景勝地の有無
	住民要請	地域住民アンケートの自由意見やパブリックコメントにおいて、環境に関わる要請が寄せられているか、否か
利用	海水浴場・ サーフィン	海水浴場・サーフィンスポットの有無
	マリナ・ダ 化ン グ・潮干狩	マリーナ・ダイビングスポット・潮干狩り場の有無
	将来計画	海岸部における将来計画の分布の有無
	都市計画区 域	海岸部における都市計画区域の分布の有無
	観光スッ ット・ イベント	観光スポット及びイベント開催場所の有無
	住民要請	地域住民アンケートの自由意見やパブリックコメントにおいて、利用に関わる要請が寄せられているか、否か

(3) ユニットの区分

以上の視点に基づき区分した結果は、図 - 1.5.1 のとおりである。また、区分された各ユニットの概略特性は、表 - 1.5.2 のとおりである。

表 - 1.5.2 各ユニットの概略特性

ユニット	概略特性
ユニット1	リアス式海岸を主体とした海岸線の中に、ポケットビーチや港が点在し海洋性レクリエーションや観光スポットが比較的多く分布している風光明媚な地域
ユニット2	岬に囲まれた比較的長い砂浜と、その背後に存在する松林で構成された白砂青松の海岸を呈する地域
ユニット3	岩礁海岸・砂浜海岸・人工構造物(港)の3つの海岸性状が存在し、自然景観の中に人工的景観が内包されている地域
ユニット4	アカウミガメの上陸・産卵、比較的多くの保安林分布があり、自然豊かな地域
ユニット5	海岸線へのアクセスが少なく、長く直線的な砂浜海岸と、点在する港で構成された地域
ユニット6	長く直線的な砂浜海岸で、アカウミガメの上陸・産卵があり、保安林も比較的多く分布し、自然豊かであるが、一部で近年の砂浜侵食が懸念されている地域
ユニット7	アカウミガメの上陸・産卵が多く、盛んな海岸利用と近年の砂浜侵食が懸念されている地域
ユニット8	リアス式海岸を主体とし、特異な海岸地形等優れた海岸景観があり、またポケットビーチが点在している地域
ユニット9	リアス式海岸を主体とした海岸線の中に、ポケットビーチが点在し海洋性レクリエーションや観光スポット等が比較的多く分布し積極的な海岸利用がなされている地域
ユニット10	外洋に面した海岸線のため、一部の港以外では海岸利用が見られない地域
ユニット11	砂浜海岸を主体とした海岸線と保安林により白砂青松を呈しているが、近年砂浜侵食が懸念されている地域

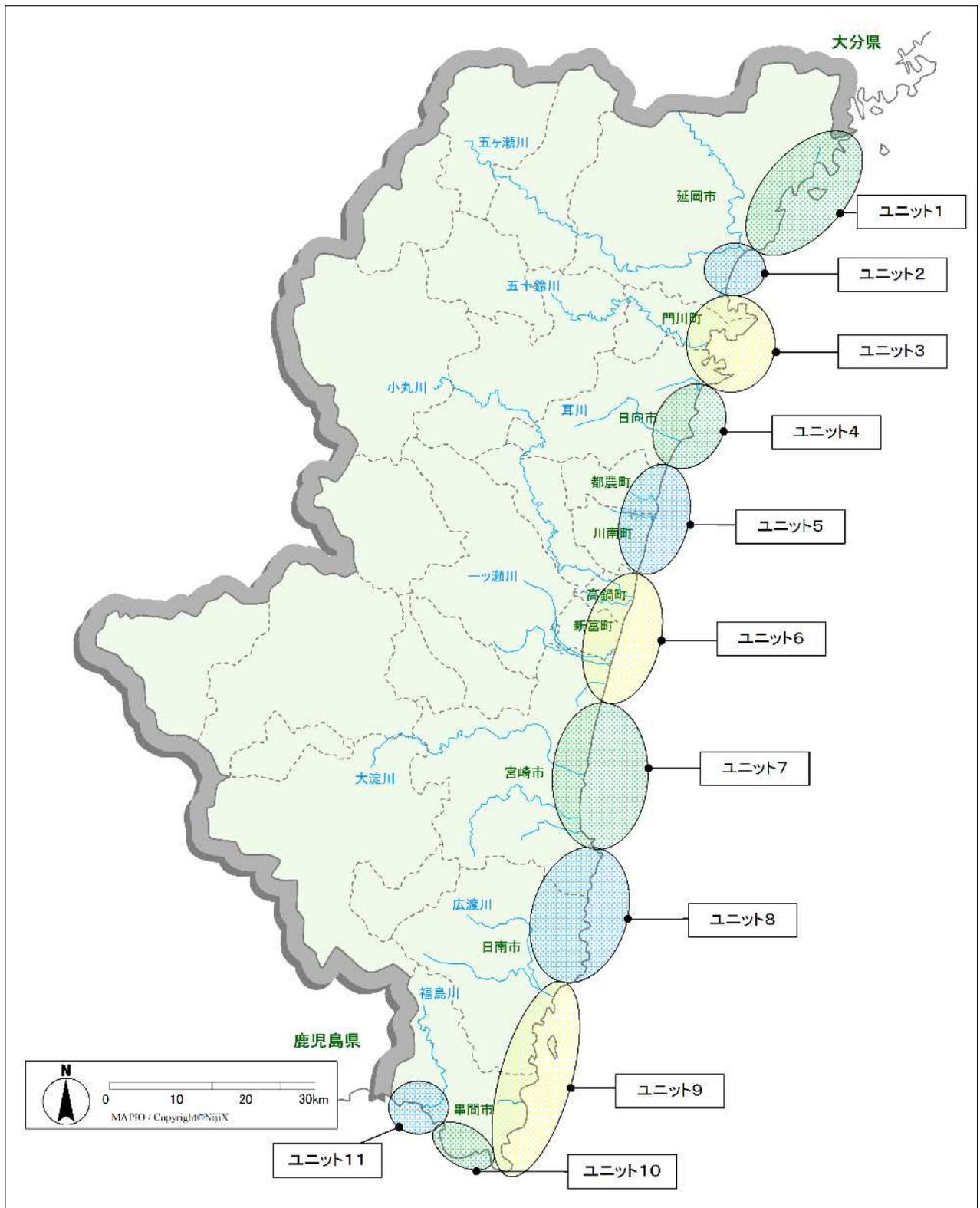


図 - 1.5.1 ユニット区分

上図のユニット区分は、防護、環境、利用の側面において類似する海岸毎に区分したものであり、表-1.2.1「地域海岸別の防護水準一覧」における地域海岸の区分とは異なる。

(4) ユニットごとの基本方針

ユニットの評価

ユニット内の海岸保全を行うにあたって“どのような事項に特に配慮すべきか”などを明確にするため、防護・環境・利用の大項目、及びこれに属する中項目、さらにこれに属する小項目を設定して、表 - 1.5.3 のとおり評価項目を設定するとともに、評価基準を設定した。

なお、評価にあたっては、本来、様々な項目に着目し、総合的に判断すべきであるので、個別の海岸において同表以外の事項について重要と認められたものは、評価のための事項とすることとした。

1) 評価項目

評価項目は、海岸保全計画に関連する「防護・環境・利用」の3側面において、重要と思われる項目を抽出した。

なお、ユニット区分において整理した項目とユニット自体の評価項目とに若干違いがあるが、この違いは、ユニット区分が個々の連続して続く海岸の類似性の抽出を目的としており、一方、ユニット評価項目がユニット内の重点課題の抽出を目的としていることから生じるものである。

ユニット区分では護岸や潜堤等の存在そのものは特性であるが、ユニット評価では老朽化や沈下等といった状態が重要となる。

観光スポットについては観光レクリエーションや海岸景観等という事項において重複してカウントされている部分が多いことや、また、イベントの開催についてはこれら施設を活用したものが中心であることから、重複して評価することをさけるため、観光スポット及びイベントの開催については評価項目としないこととした。

また、ユニット区分の1つの指標として捉えた地域からの要請については、以下の考え方から、評価項目からは除外することとした。

地域要請は、地域の現状を反映した、まさに現場からの切実な声である。したがって、他の評価項目と同様に位置付けるのではなく、最終的に、ユニット評価の結果と総合して判断すべき事項であるという位置付けとしている。

表 - 1.5.3 評価項目と評価基準

評価項目			評価基準		
大項目	中項目	小項目	評価内容	評価	
防護	侵食	侵食状況	侵食が激しい海岸	◎	
			既往資料により汀線変動(侵食等)が見られる海岸	○	
			既往資料により汀線変動が少ない海岸	△	
	被災状況	被災状況	侵食による海岸保全施設の被災があった	◎	
			侵食による海岸保全施設の被災はない	△	
			波の打ち上げ高に対して天端高(浜高)が不足している保全施設が多い	◎	
	高潮	高潮・越波	波の打ち上げ高に対して十分な天端高(浜高)を有している保全施設が多い	△	
			高潮・越波による海岸保全施設の被災があった	◎	
			高潮・越波による海岸保全施設の被災はない	△	
	津波	津波	設計津波の水位(レベル1津波)に対して天端高(浜高)が不足している保全施設が多い	◎	
			設計津波の水位(レベル1津波)に対して十分な天端高(浜高)を有している保全施設が多い	△	
			津波による海岸保全施設の被災があった	◎	
	施設の老朽度(目視観察)	被災状況(海岸保全施設)	津波による海岸保全施設の被災はない	△	
			施設の構造上問題があり、緊急に補修の必要性がある	◎	
補修・補強について、継続的に観測する必要がある保全施設が多い			○		
環境	生態系	希少な植物	絶滅危惧種Ⅰ類及びⅡ類が存在する	◎	
			準絶滅危惧種及びその他保護上重要な種が存在する	○	
			保護上重要な野生生物が存在しない	△	
	希少な植物群落	アカウミガメ	総合的植物群落総合評価A～Cまでの群落がある	◎	
			総合的植物群落総合評価A～Cまでの群落がない	△	
			毎年アカウミガメの上陸・産卵実績がある	◎	
	天然記念物等	天然記念物等	毎年ではないがアカウミガメの上陸・産卵実績がある	○	
			アカウミガメの上陸・産卵実績がない	△	
			海岸部に天然記念物等が存在する	◎	
	海岸景観	保安林	海岸部に天然記念物等が存在しない	△	
			保安林が多く分布している	◎	
			保安林が点在している	○	
		国定公園	景勝地	保安林がない	△
				国定公園が指定されかつユニット内に特別保護区域及び海中公園がある	◎
国定公園が指定されている区域を有している				○	
国定公園指定がない	△				
利用	海水浴場	海水浴場	全国・地方・都道府県レベルで優れた景勝地が1ヶ所以上ある	◎	
			上記以外の景勝地が1ヶ所以上ある	○	
			景勝地がない	△	
	サーフィン	サーフィン	観光型の海水浴場がある	◎	
			地域密着型の海水浴場がある	○	
			海水浴場がない	△	
	その他施設	将来計画	著名なサーフィンスポットが存在する	◎	
			著名ではないがサーフィンスポットが存在する	○	
			サーフィンスポットが存在しない	△	
	将来計画	背後土地 利用	マリーナ・ダイビングスポット・潮干狩り場が存在する	◎	
			マリーナ・ダイビングスポット・潮干狩り場が存在しない	△	
			具体的な将来計画あり	◎	
	背後土地 利用	都市計画区域	施工中	○	
			具体的な将来計画なし	△	
背後に大規模な都市計画区域が分布している			◎		
都市計画区域	都市計画区域	背後に都市計画区域が分布している	○		
		背後に都市計画区域の分布がない	△		

3)ユニットの評価・課題と基本方針

前項において設定した評価項目・評価基準に基づき、各ユニットの小項目・中項目について評価を行った。この評価結果を踏まえ、ユニットごとの基本方針を次のとおり示す。なお、前述したように、ユニットごとの基本方針の検討にあたっては、平成13年12月に実施したアンケート調査及び平成27年1月に実施したパブリック・コメントにより把握された地域住民からの要請や行政側からの要請としての関連計画の中の海岸部の位置付けや整備の方向性等も考慮することとした。

また、表中の は重要度が高く特に配慮すべき項目、 は重要度が高く配慮すべき項目、 は重要度が比較的低く積極的に配慮しなくとも良い項目を示す。

市町名	ユニット	海岸名	配慮が必要な項目の評価									地域住民からの要請	関連計画から見た要請	基本方針	
			防護				環境			利用					
			侵食	高潮	津波	老朽度	生態系	天然記念物等	海岸景観	観光レク	背後土地利用				
延岡市	1	波瀬河原海岸～延岡港海岸											<ul style="list-style-type: none"> 公園整備やトイレ便利施設整備 豊かな自然環境の保全を重視した海岸整備 景観、利用、環境に配慮した施設計画 津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 【浜木綿村などの周知による自然とのふれあいの推進】 【自然的環境の保全・促進】 【地域住民や各種団体の海岸美化活動への支援・協力】 【海浜境界部等の緑化による修景】 【周辺の海浜景観と調和した形態・意匠への建築物等の誘導】 【野生動植物の保護の推進】 	豊かな自然環境の保全と、環境への影響に配慮した海岸整備を行い、併せて海岸利用を促進する。
	2	延岡港海岸～延岡新港海岸											<ul style="list-style-type: none"> 砂浜侵食対策 保安林（松林）復元 便利施設・公園整備 松林や砂浜の清掃等維持管理 景観、利用、環境に配慮した施設計画 津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 【環境負荷の低減を担う自然環境(長浜海岸など)の保全】 【自然的環境の保全・促進】 【アカウミガメの産卵地(長浜海岸や方財海岸など)の保全】 【地域住民や各種団体の海岸美化活動への支援・協力】 【海浜境界部等の緑化による修景】 【周辺の海浜景観と調和した形態・意匠への建築物等の誘導】 【野生動植物の保護の推進】 	砂浜と背後の松林の回復や保全により、地域を代表する白砂青松の景観を形成し、心のふるさととなりうる海岸を創出する。また、現状の海岸利用にも配慮し、海岸保全を図る。
	門川町	3	延岡新港海岸～伊勢ヶ浜海岸										<ul style="list-style-type: none"> 砂浜侵食対策 休憩所、遊歩道等公園整備、駐車場整備 海岸部のゴミ問題対策 既往便利施設の老朽化対策 海岸利用のモラル向上 景観、利用、環境に配慮した施設計画 津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 【藻場、干潟等海岸の自然環境の保全】 【環境負荷の低減を担う自然環境(伊勢ヶ浜など)の保全】 【自然的環境の保全・促進】 【アカウミガメの産卵地(新浜海岸など)の保全】 【観光イベント開催の推進】 【細島商業港のウォーターフロント開発】 【レクリエーション拠点の整備】 【細島地区に点在する景観資源の活用・発掘・育成】 【地域住民や各種団体の海岸美化活動への支援・協力】 【海浜境界部等の緑化による修景】 【周辺の海浜景観と調和した形態・意匠への建築物等の誘導】 【動植物の生息・生育環境の保全に配慮した公共事業】 【海岸線の景観向上】 【野生動植物の保護の推進】 	海岸景観・自然環境及び砂浜の保全を基本としつつ、積極的な利用を図る。また、高潮・越波、津波等が懸念される区域に関しては、海岸保全の充実を図る。
日向市	4	小倉ヶ浜海岸～美々津南地区海岸										<ul style="list-style-type: none"> 小倉ヶ浜侵食対策と背後保安林維持管理対策 駐車場・道路整備 砂浜のゴミ堆積対策 砂浜の利用規制 美々津伝統的建造物群保存地区との一体的海岸整備 景観、利用、環境に配慮した施設計画 津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 【自然的環境の保全・促進】 【観光イベント開催の推進】 【金ヶ浜などにおける流木対策の推進】 【都市公園(お倉ヶ浜総合公園)の施設整備】 【景観と海辺を楽しむ拠点づくり(お倉ヶ浜、金ヶ浜など)】 【動植物の生息・生育環境の保全に配慮した公共事業】 【海岸線の景観向上】 	松林やアカウミガメ等の自然環境及び海岸景観の保全を進めるとともに、これを利用するレクリエーション活動との調和を図りながら、砂浜の保全を進め、地域の活性化に寄与する。	
都農町 川南町	5	都農海岸～川南漁港海岸										<ul style="list-style-type: none"> 侵食による市域施設(墓地)への高潮対策 保安林維持管理による緑の保護 海岸保全施設の利用・景観面での改良 美々津南海岸での侵食対策・現在の自然の保全 景観、利用、環境に配慮した施設計画 津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 【環境構成機能の高い緑地(国有林など)の保全】 【災害防止に寄与する緑地などの保全】 【アカウミガメの産卵地(伊倉浜自然公園など)の保全】 【修景施設の整備や周辺環境の美化など、美しい漁村づくり】 	現状の豊かな海岸環境とその利用を維持することを基本としつつ、一部侵食や津波等が懸念される区域に関しては、海岸保全施設の整備を行う。	

市町名	ユニット	海岸名	配慮が必要な項目の評価								地域住民からの要請	関連計画から見た要請	基本方針	
			防護				環境			利用				
			侵食	高潮	津波	老朽度	生態系	天然記念物等	海岸景観	観光レク				背後土地利用
高鍋町 新富町	6	持田地区海岸 ～ 宮崎海岸 (住吉地区)										<ul style="list-style-type: none"> ・養浜等侵食対策による砂浜の復元 ・保安林の維持管理による保全及び公園の利用 ・砂浜を中心とした海岸維持管理体制確立 ・高波浪対策 ・景観、利用、環境に配慮した施設計画 ・津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<p>【海岸景観の美化・保全】【環境教育の充実】</p> <p>【アカウミガメの産卵地(富田浜海岸など)やコアジサシの保全】</p> <p>【豊かな自然的環境や農林水産資源を活かした交流のまちづくり】</p> <p>【高鍋海水浴場・キャンプ村への誘客】</p> <p>【蚊口浦海浜公園における、憩いの場・レクリエーションの場の形成】</p> <p>【津波避難施設の整備(佐土原など)】</p> <p>【新富町の原風景である富田浜入江など、観光・自然・歴史的資源の保全・活用を図る】</p> <p>【富田浜の黒松を中心とした海岸の樹林地の保全】</p> <p>【渡り鳥の飛来地である一ツ瀬川河口の環境を保全】</p> <p>【自然海浜と調和した色彩・形態の建築物への誘導】</p> <p>【希少な動植物の保護・育種】【直線的に続く佐土原海岸の景観の保全】【貴重な野生動植物の生息・生育地の保護】</p>	アカウミガメや保安林等の環境面、サーフィン等利用面に配慮した海岸の保全を行う。
宮崎市	7	宮崎海岸 (住吉地区) ～ 青島漁港海岸										<ul style="list-style-type: none"> ・養浜等侵食対策による砂浜の復元 ・保安林の維持管理による保全及び公園の利用 ・便利施設整備、釣り施設整備、公園整備 ・青島周辺の海のアクティビティに配慮した施設計画 ・景観、利用、環境に配慮した施設計画 ・津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<p>【宮崎港を物流拠点とし、防波堤整備を促進】</p> <p>【環境負荷の低減を担う自然環境の保全】</p> <p>【青島地域活性化基本計画の重点整備地区の施設整備】</p> <p>【直線的に続く一ツ葉海岸、緩やかに湾曲する空港～青島にかける海浜の景観の保全】【貴重な野生動植物の生息・生育地の保護】</p> <p>【観光リゾートにふさわしい景観への配慮】</p> <p>【松林、日南海岸方面のフェニックス等景観要素の保全】</p> <p>【津波避難施設の整備(赤江、木花、青島など)】</p>	アカウミガメの上陸・産卵等の環境面に十分配慮し、砂浜の保全・回復を目的とした海岸の保全を図る。また、現状の多様な海岸利用を促進しつつ、地域特性を活かした観光リゾートづくりを積極的に推進する。
日南市	8	堀切海岸 ～立石海岸										<ul style="list-style-type: none"> ・海岸へのアクセス確保 ・景観、利用、環境に配慮した施設計画 ・津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<p>【鶏戸神宮、サンメッセ日南などマリンスポーツ・レジャーを楽しめる観光資源として活用】【複雑に入り組む日南海岸の保全】【貴重な野生動植物の生息・生育地の保護】</p> <p>【観光リゾートにふさわしい景観への配慮】</p>	優れた海岸環境及び景観の保全や、観光資源の活用促進に十分配慮して、必要な海岸の保全を図る。
日南市	9	風田・平山海岸 ～都井岬海岸										<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜海岸における侵食対策 ・砂浜背後の保安林の復元 ・便利施設整備 ・高潮、越波、塩害等への対策 ・海岸清掃等ゴミ問題への対策 ・幸島のサル保護 ・景観、利用、環境に配慮した施設計画 ・津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<p>【日南海岸一帯を国際級海洋性リゾートゾーンへ位置づけ】</p> <p>【大堂津海水浴場などマリンスポーツ・レジャーを楽しめる観光資源として活用】【水辺環境の保全と創出】</p> <p>【油津港を観光交流の場として整備】【都井岬や幸島、恋ヶ浦のサーフィンなどの観光資源の保護、整備、充実、ネットワーク化の推進】【山と海が接する自然環境、景観の保全】【南国情緒豊かな海岸景観の保全】【日南海岸固定公園の管理計画に基づく保全と活用】【海中公園内の珊瑚礁の保全】</p>	海岸の防護における安全性の向上及び自然景観・環境の保護を行うとともに、これらを活用している海岸利用を促進しつつ、魅力ある地域づくりを推進する。
串間市	10	都井漁港海岸 ～永田海岸										<ul style="list-style-type: none"> ・景観、利用、環境に配慮した施設計画 ・津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<p>【豊かな自然的環境や農林水産資源を活かした交流のまちづくり】</p> <p>【砂浜や松林などの積極的な保全】【水辺の豊かな自然環境の保全】</p>	現状の豊かな自然環境の保全に努め、景観、利用にも配慮し、一部津波等が懸念される区域について海岸整備を行う。
串間市	11	本城漁港海岸 ～福島高松海岸										<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜侵食対策及びこれに伴う道路沈下への対応 ・景観、利用、環境に配慮した施設計画 ・津波避難施設の整備など、ソフト対策の充実 	<p>【豊かな自然的環境や農林水産資源を活かした交流のまちづくり】</p> <p>【砂浜や松林などの積極的な保全】</p> <p>【高松海水浴場などの観光資源の保護、整備、充実、ネットワーク化の推進】【水辺の豊かな自然環境の保全】</p>	侵食対策の実施による松林の保全、アカウミガメを含めた豊かな自然環境と優れた海岸景観の保全・形成を目指すとともに、施設整備にあたっては地域の日常的利用にも配慮する。